



ほかにはない
アンサーを。

オリックス株式会社

2021年3月期第3四半期 決算説明資料

執行役 経本部長

矢野 人磨呂

2021年2月8日

(1) 業績総括

当期純利益 1,420億円 (前年同期比▲42%)、ROE (年換算) 6.4%

21.3期 中間決算にて発表した、今期の当期純利益予想 (1,900億円) に対する進捗率は75%
当期純利益は、第2四半期 (438億円) から第3四半期 (482億円) にかけて回復

(2) 株主還元

中間決算にて発表した自社株買い (442億円) は100%完了、取得分は消却済

通期配当予想 76円、通期配当性向 50%のどちらか高い方に変更なし

(3) 新規投資

注力分野である環境エネルギー、アセットマネジメントを中心に約4,000億円の投資実行

日本の上場企業における再生可能エネルギーのトッププレイヤー (総発電容量3GW)

(4) 財務健全性

高い手元流動性を確保、A格以上を維持

S&Pをはじめ、Moody's、Fitchすべて、A-を維持。R&IはAA-

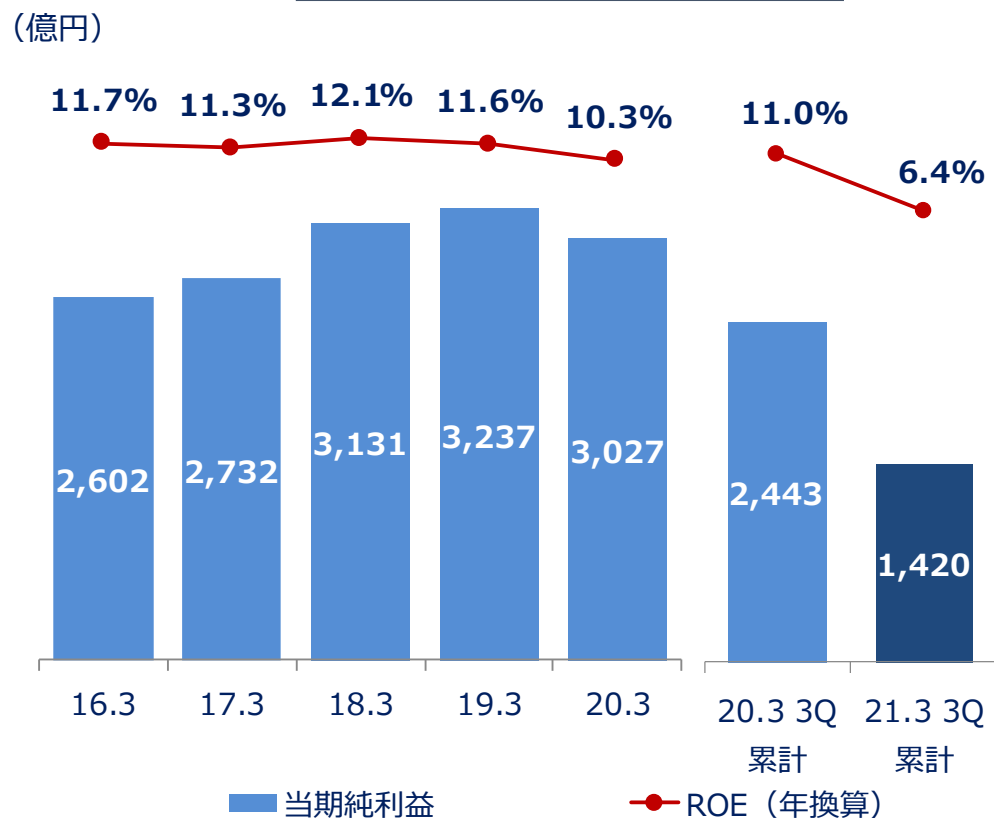
業績総括 当期純利益/ROE

✓ 当期純利益は 1,420億円 (前年同期比▲42%、進捗率*75%)、ROE (年換算) は 6.4%

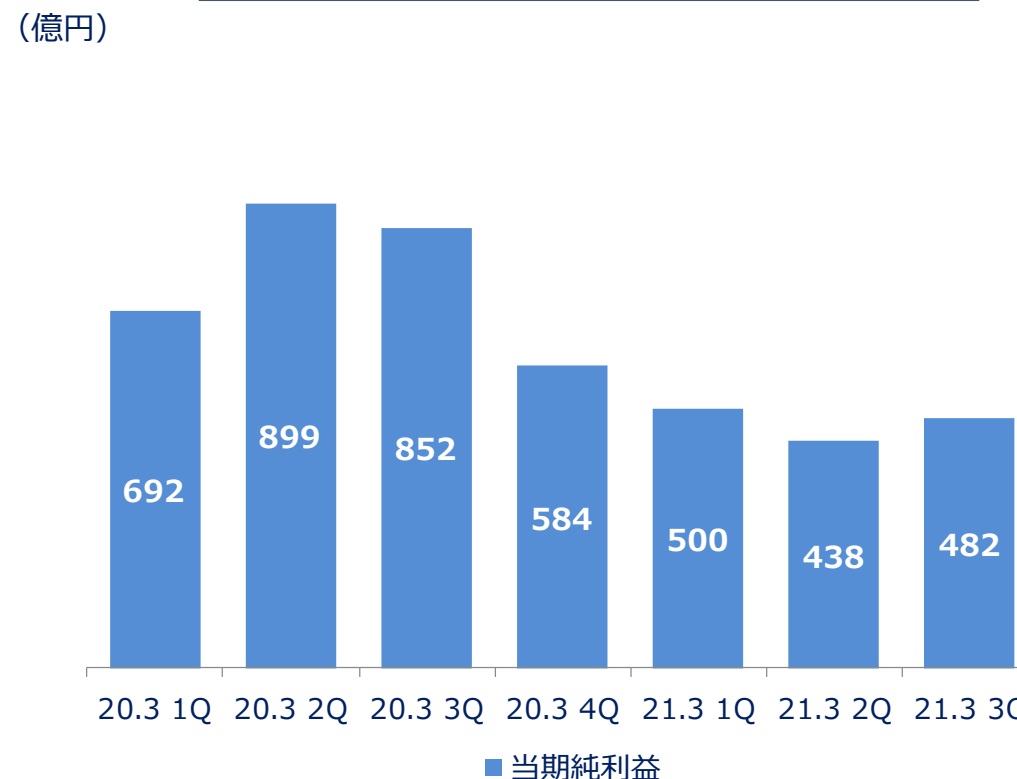
✓ 第2四半期 (438億円) から第3四半期 (482億円) にかけて回復

*当期純利益予想1,900億円に対する進捗

当期純利益**とROE

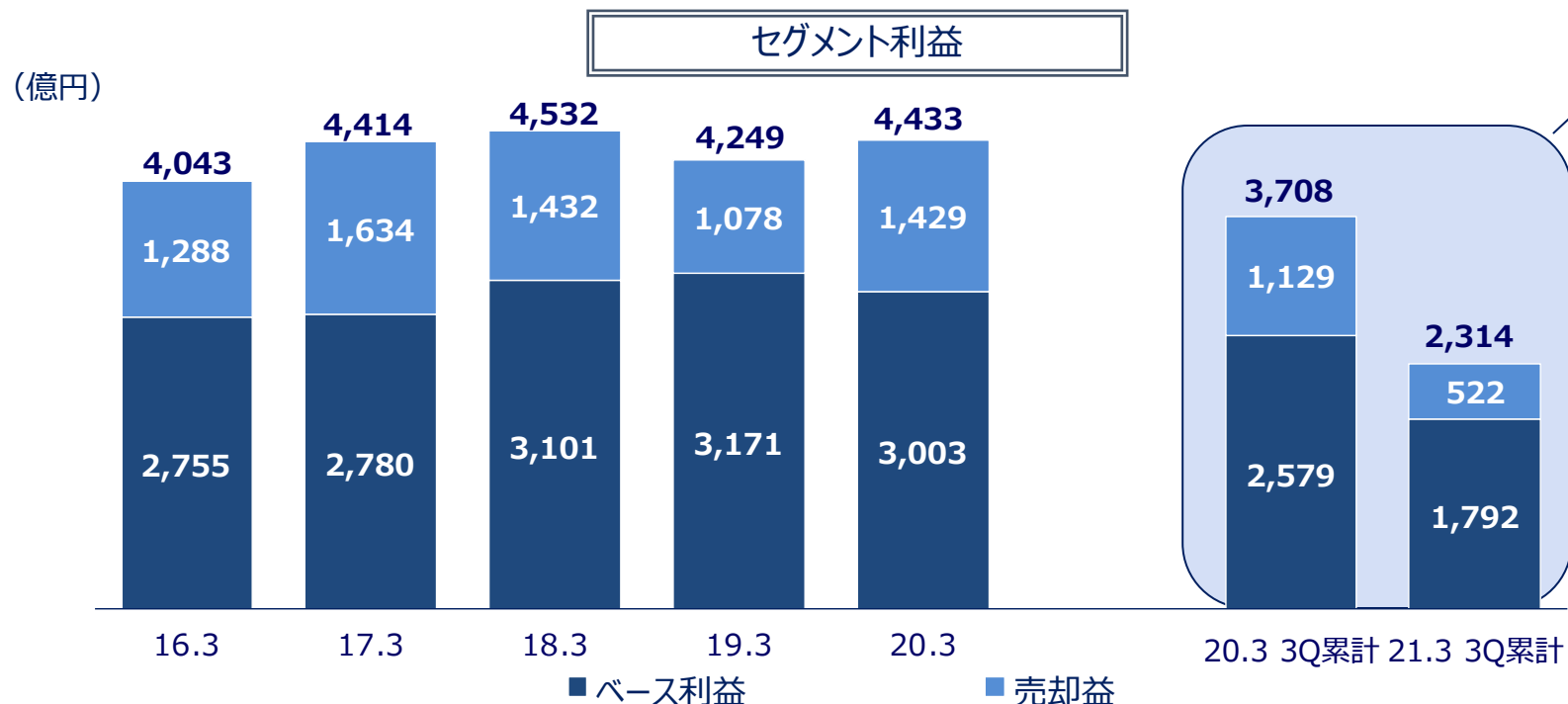


四半期の当期純利益の推移



**「当期純利益」は「当社株主に帰属する当期純利益」を指します

21.3期3Q累計 セグメント利益 2,314億円 前年同期比 ▲37.6% (▲1,394億円)	うち ベース利益	1,792億円 前年同期比▲30.5% (▲787億円) 不動産（運営）、コンセッション、航空機リースが減益 一方で、コロナ禍においても、環境エネルギー、生命保険、銀行・クレジットは堅調
	うち 売却益*	522億円 前年同期比▲53.8% (▲607億円) 前年同期より減少したものの、不動産の他、米国やアジアでも実現。コロナ禍においても一定水準を確保



*主な売却益：賃貸不動産売却益、子会社・関連会社株式売却益、有価証券売却益など

業績総括 新型コロナウイルスの影響

✓ 引き続き、コロナの影響には注意を要するが、2Qから3Qにかけて、影響額は縮小

(セグメント利益、単位：億円)

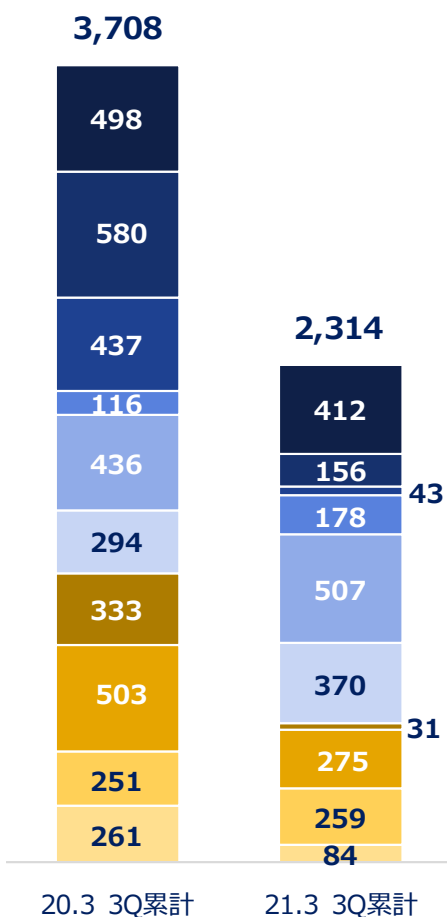
項目	3Qの状況	影響額(1Q)	影響額(2Q)	影響額(3Q)
① 不動産（運営）	Go to Travelにより、2Q比回復 稼働率は11月まで回復基調、12月は若干低下	▲60	▲30	▲20
② 航空機リース	第3波到来により、引き続き慎重な対応が必要 一方、Avolonは5年債を利率2.125%で発行する等、調達環境は良好	▲50	▲120	▲80
③ 空港コンセッション	12月の国内線発着回数は前年比8割まで回復したものの、事業環境は引き続き注視が必要	▲40	▲90	▲80
④ 法人営業・メンテナンスリース	自動車、レンタックは2Qから3Qにかけて回復基調	▲50	▲20	▲0
⑤ ORIX USA	1Qは、エネルギー資産を中心に信用損失費用を計上したが、2Q以降は減少。また、ファンド評価損益も改善	▲90	▲10	▲0
⑥ その他（オリックス生命等）	1Qは、旧ハートフォード生命の責任準備金戻入益を計上。2Q以降は大きな動きなし	+50	-	-
上記合計		約▲240	約▲270	約▲180

セグメント業績 (1) セグメント利益

✓ 前Q比では、6セグメントで増益と回復基調。また、前年同期比では4セグメントが増益

(億円)

(億円)

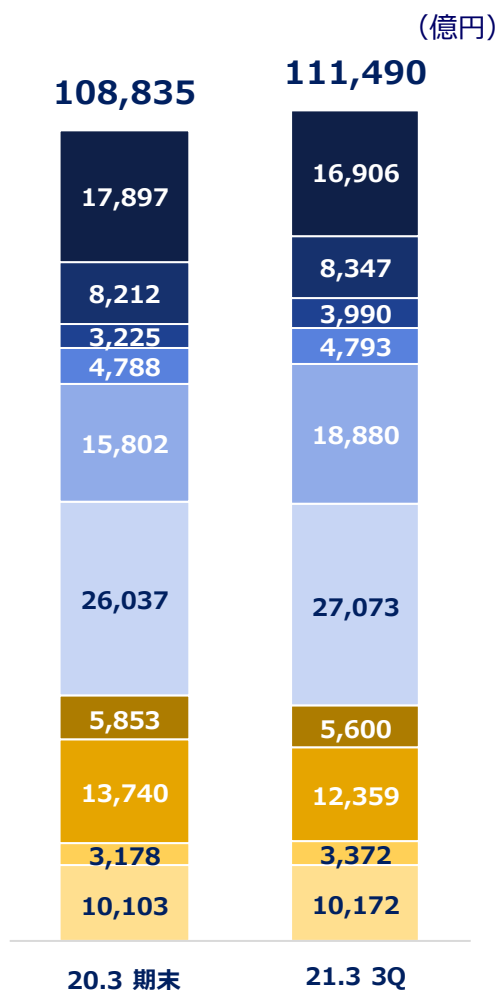


	1Q	2Q	3Q	前Q比	3Q累計	前年同期比	ハイライト
1 法人営業・メンテナンスリース	102	147	162	15	412	▲ 86	自動車、レンタックの回復基調が続き、前Q比増益
2 不動産	15	88	52	▲ 36	156	▲ 424	宿泊施設の稼働率は回復するが、大型売却益案件がなく、前Q比減益
3 事業投資・コンセッション	45	▲ 4	2	6	43	▲ 394	コンセッションは前Q比横ばい (現時点では、国際線の回復は鈍いが、国内線は回復基調)
4 環境エネルギー	81	60	37	▲ 24	178	62	コロナ影響は軽微。堅調に推移。前年同期比増益
5 保険	180	168	159	▲ 8	507	71	コロナ影響下では、非対面募集が伸長。前年同期比増益
6 銀行・クレジット	115	128	127	▲ 1	370	75	銀行・クレジットともに堅調に推移。前年同期比増益
7 輸送機器	73	▲ 26	▲ 16	10	31	▲ 302	リース料収入、売却益の減少に加え、Avolonからの取込利益も減少
8 ORIX USA	2	112	161	50	275	▲ 227	信用損失費用の縮小及びファンドの評価損益の改善により、前Q比大幅に増益
9 ORIX Europe	67	96	96	1	259	8	AUMは大幅に回復、利益は堅調に推移
10 アジア・豪州	74	▲ 28	37	65	84	▲ 177	2Q、3QにPE投資先に対して減損を計上するも、現地法人の利益は堅調
合計	754	741	819	78	2,314	▲ 1,394	-

セグメント業績 (2) セグメント資産

- ✓ 法人営業、ORIX USAはバランスシートを使う投融資に引き続き慎重に取り組み、資産減少
- ✓ 生命保険は新規契約が順調で、資産増加

(億円)



	21.3 3Q	前期末比	ROA (年換算・税引後)	ハイライト
1 法人営業・メンテナンスリース	16,906	▲ 991	2.2%	自動車、レンテックは横ばい、法人営業が減少
2 不動産	8,347	135	1.7%	—
3 事業投資・コンセッション	3,990	764	1.1%	新規投資に伴う資産増加
4 環境エネルギー	4,793	5	3.4%	—
5 保険	18,880	3,078	2.7%	新規契約の増加に伴い、運用資産が増加
6 銀行・クレジット	27,073	1,035	1.3%	銀行の貸付金残高が増加
7 輸送機器	5,600	▲ 253	0.5%	大半が為替影響
8 ORIX USA	12,359	▲ 1,382	1.9%	投融資案件を厳選したため営業貸付金が減少、為替影響もあり
9 ORIX Europe	3,372	193	7.2%	—
10 アジア・豪州	10,172	69	0.8%	—
合計	111,490	2,654	1.7%	—

新規投資の進捗状況

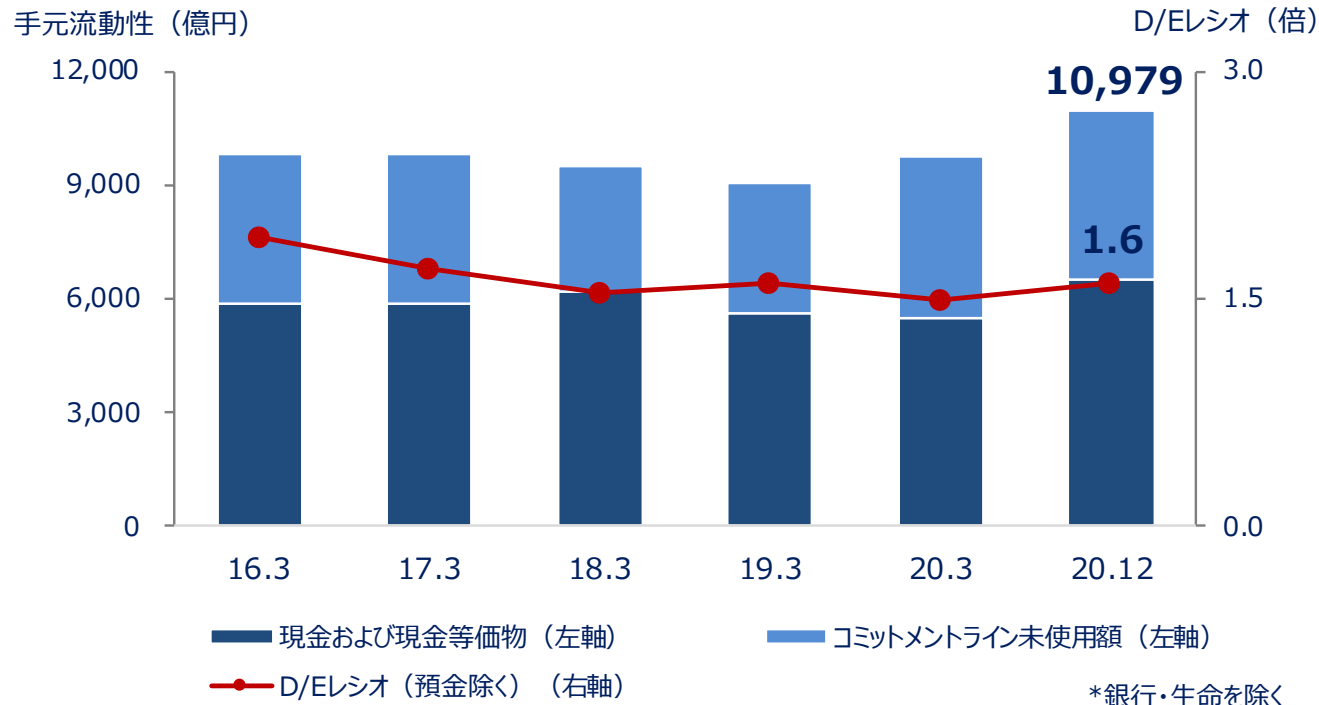
- ✓ 今期、約4,000億円の新規投資を発表
- ✓ 第3四半期には、Elawan、Gravis Capital Management、杉孝の買収を発表

分野	社名	概要
① 環境エネルギー事業 →詳細は、P17, P18をご参照	Elawan	スペイン本拠のグローバル再生可能エネルギー事業者 (稼働済施設：0.7GW、パイプライン：10GW以上)
	Greenko Energy	インドの大手再生可能エネルギー事業者 (稼働済施設：5.7GW、パイプライン：8GW以上)
② アセットマネジメント事業 →詳細は、P29をご参照	Gravis Capital Management	英国のオルタナティブ資産運用会社 (ESG関連のファンド運用に注力)
	Boston Capital	米国の大手LIHTCシンジケーター (同社買収により米国の不動産関連のAUMが業界トップクラスの規模に拡大)
③ プライベートエクイティ投資	杉孝	日本の足場・仮設機材レンタル大手 (20.3期には、物流機器レンタル大手のワコーパレットを買収済。事業のスケールアップを図る)
	APRESIA Systems	日本のネットワーク機器メーカー (ウィズコロナ、アフターコロナ時代にDX投資を拡大)

財務健全性/手元流動性

- ✓ 引き続き、高い流動性を維持
- ✓ S&P、Moody's、FitchすべてA-を維持。R&IはAA-
- ✓ 投資や売却のタイミング次第では、格付が変動する可能性は有るが、中長期的にはA格に相応しい財務基盤を維持

手元流動性*・D/Eレシオ



格付

(2020年12月末時点)

格付一覧	
S&P	A- (ネガティブ)
Moody's	A3 (ネガティブ)
Fitch	A- (ネガティブ)
R&I	AA- (安定的)

セグメント実績

セグメント別実績 (1) 法人営業・メンテナンスリース

*1億円未満を四捨五入して表示しているため、各ビジネスユニットの合計値は、必ずしもセグメント数値とは合致しません

セグメント利益：412億円

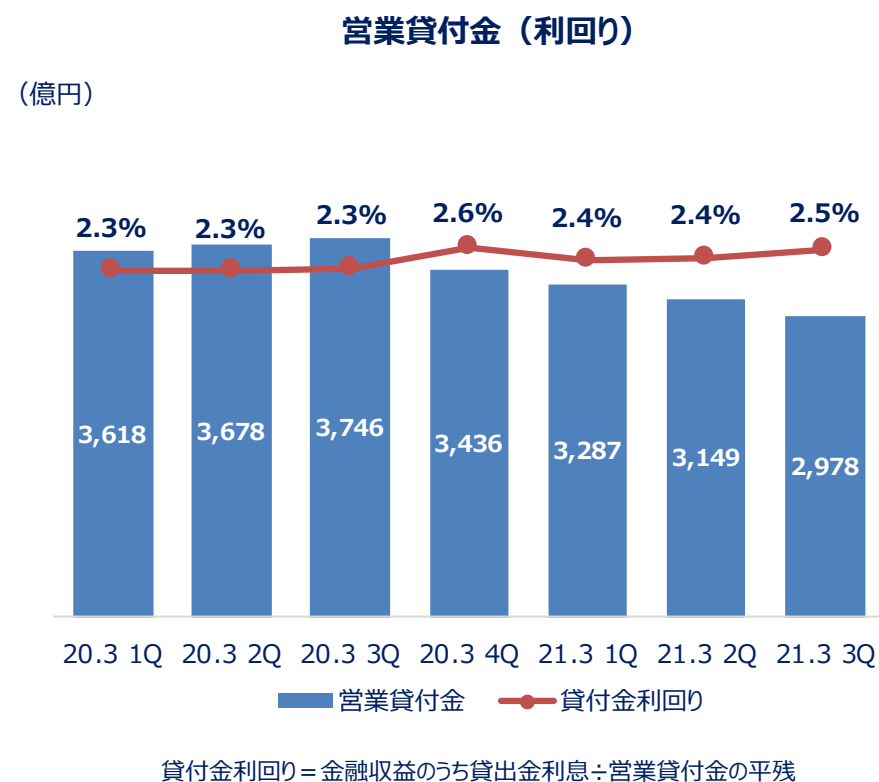
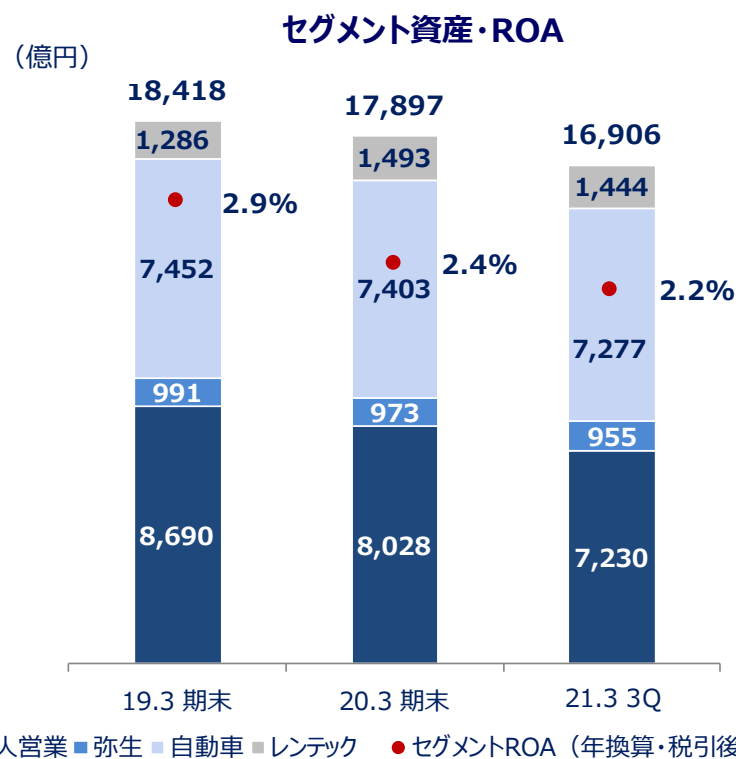
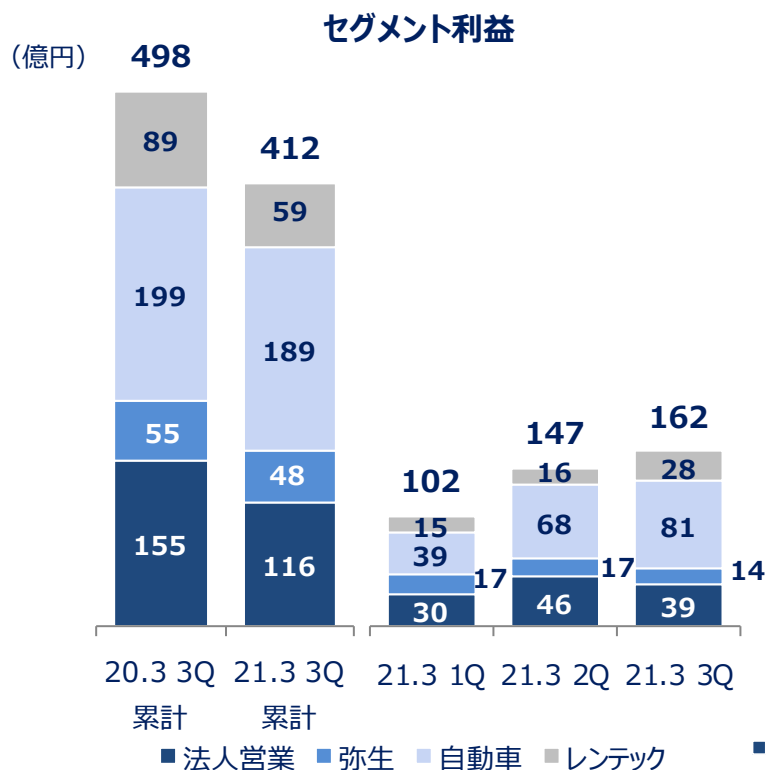
前年同期比 ▲86億円 (▲17%)

- ✓ 法人営業は、有価証券評価益の減少により前Q比減益
- ✓ 自動車は、レンタカー需要や中古車市場が回復基調。前Q比+13億円
- ✓ レンテックは、技術センターの稼働回復により増益。前Q比+12億円


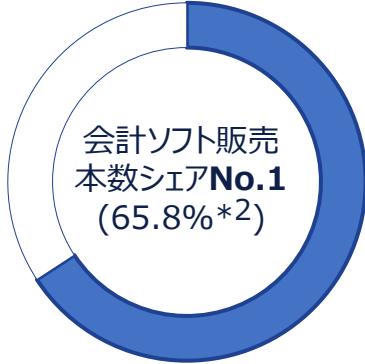
セグメント資産：16,906億円

前期末比 ▲991億円 (▲6%)

- ✓ バランスシートを使う投融資に引き続き慎重に取り組み、資産減少



セグメント事業内容：金融、各種手数料ビジネス、自動車および電子計測器・IT関連機器などのリースおよびレンタル、弥生

法人営業	自動車	弥生						
国内のグループネットワークを活用し、中小企業向けソリューションを提供	リース、レンタカー、カーシェアリングを展開	小規模法人・個人向け デスクトップ版・クラウド版ともにシェア No.1						
 <p>法人営業 グループ営業の中核的なプラットフォーム</p>	<div data-bbox="996 558 1595 751" style="border: 2px solid blue; padding: 5px; text-align: center;"> <p>車両管理台数 143.9万台</p> </div> <table border="1" data-bbox="963 758 1625 1143"> <tr> <td>リース車両台数</td> <td>業界No.1*1</td> </tr> <tr> <td>レンタカー車両台数</td> <td>業界No.2*1</td> </tr> <tr> <td>カーシェアリング車両台数</td> <td>業界No.3*1</td> </tr> </table>	リース車両台数	業界 No.1 *1	レンタカー車両台数	業界 No.2 *1	カーシェアリング車両台数	業界 No.3 *1	<div data-bbox="1671 551 2033 911">  <p>会計ソフト販売 本数シェアNo.1 (65.8%*2)</p> </div> <div data-bbox="2048 551 2410 911">  <p>クラウド会計ソフト 利用シェアNo.1 (56.7%*3)</p> </div> <p>売上高：202.7億円 有償保守サポートユーザー：約74万 (2020年9月時点)</p>
リース車両台数	業界 No.1 *1							
レンタカー車両台数	業界 No.2 *1							
カーシェアリング車両台数	業界 No.3 *1							

*1 オリックス自動車調べ(2020年3月末時点)

*2 業務ソフト市場における弥生製品のシェア：第三者による市場調査をもとに独自集計(対象期間：2019年10月1日~2020年6月30日)

*3 「クラウド会計ソフトの利用状況調査」MM総研調べ2020年4月

セグメント別実績 (2) 不動産

セグメント利益 : 156億円

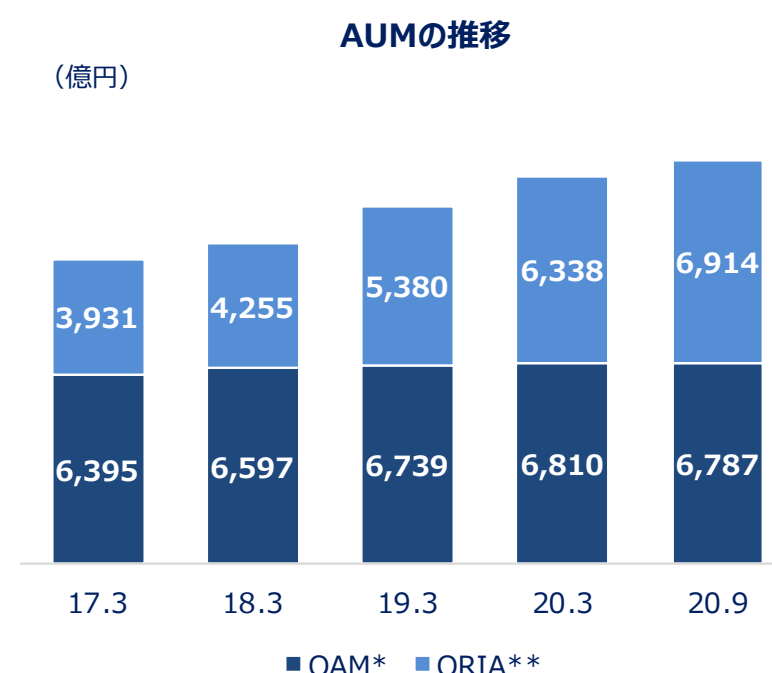
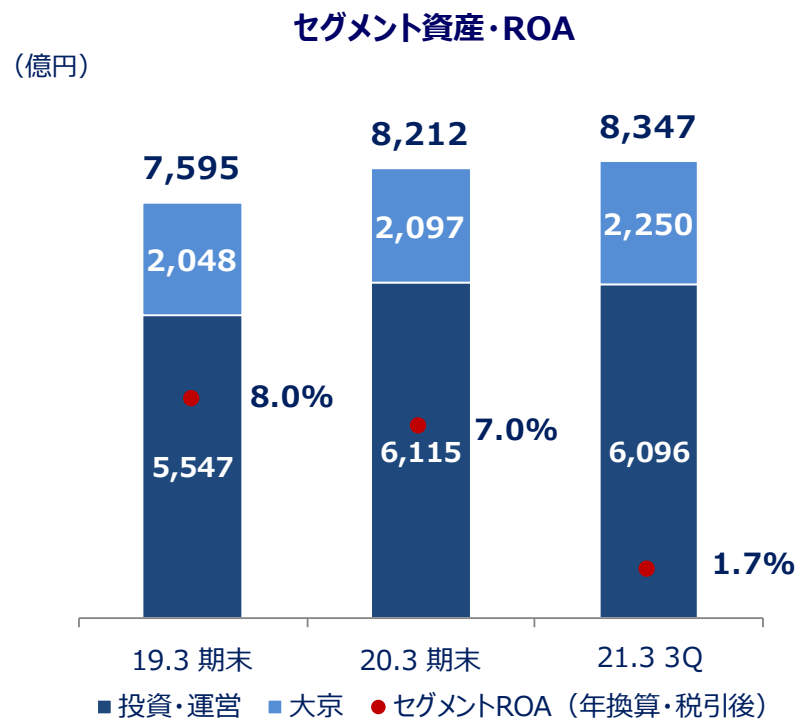
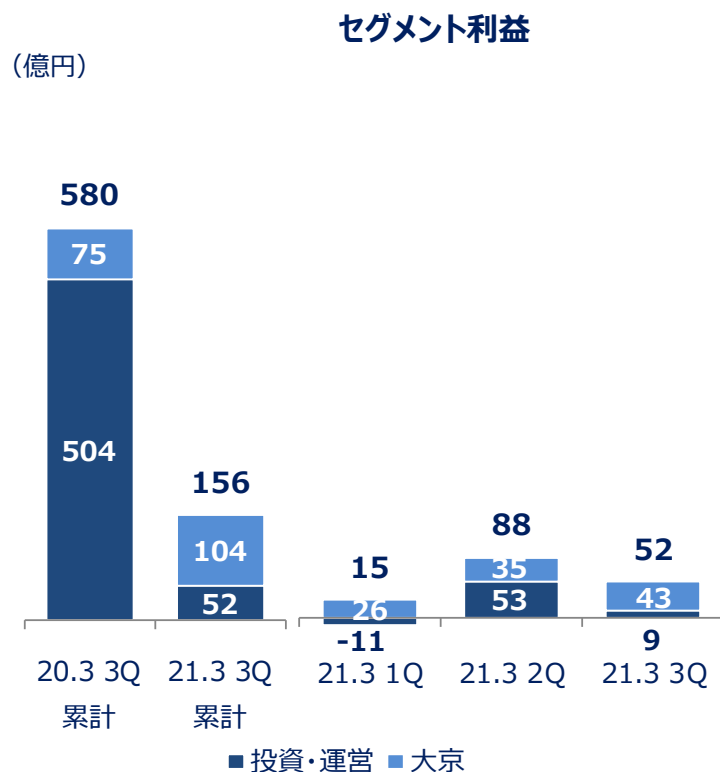
前年同期比 ▲424億円 (▲73%)

- ✓ 投資・運営は、宿泊施設の稼働率が回復し、ベース利益は増加
一方、3Qに大型案件の売却益がなく減益
- ✓ 大京のマンション事業は堅調に推移

セグメント資産 : 8,347億円

前期末比 +135億円 (+2%)

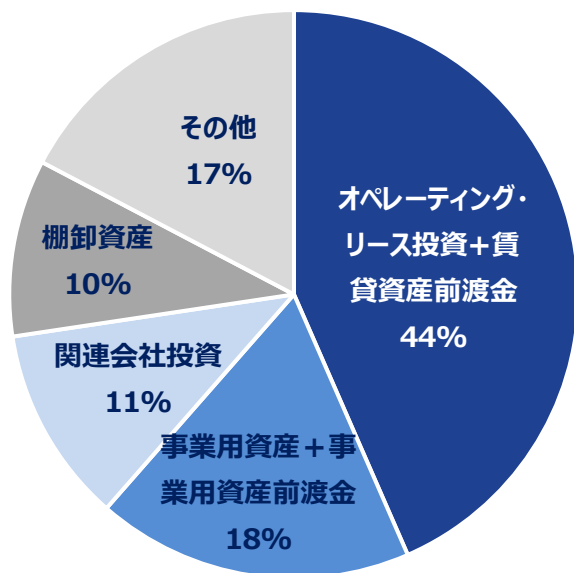
- ✓ 全体として、資産は横ばい
- ✓ 不動産のアセットマネジメントにおけるAUM (運用資産残高) は順調に増加



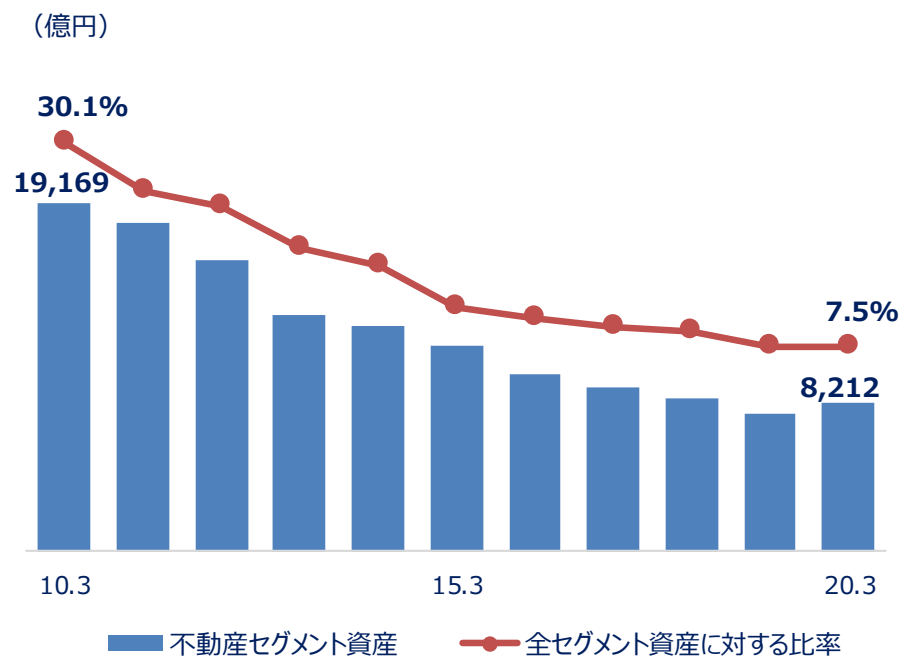
* オリックス・アセットマネジメント(株) (J-REIT) 毎年2月末および8月末時点の期末残高を同年3月末および9月末として掲載
** オリックス不動産投資顧問(株) (私募ファンド)

セグメント事業内容：不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント

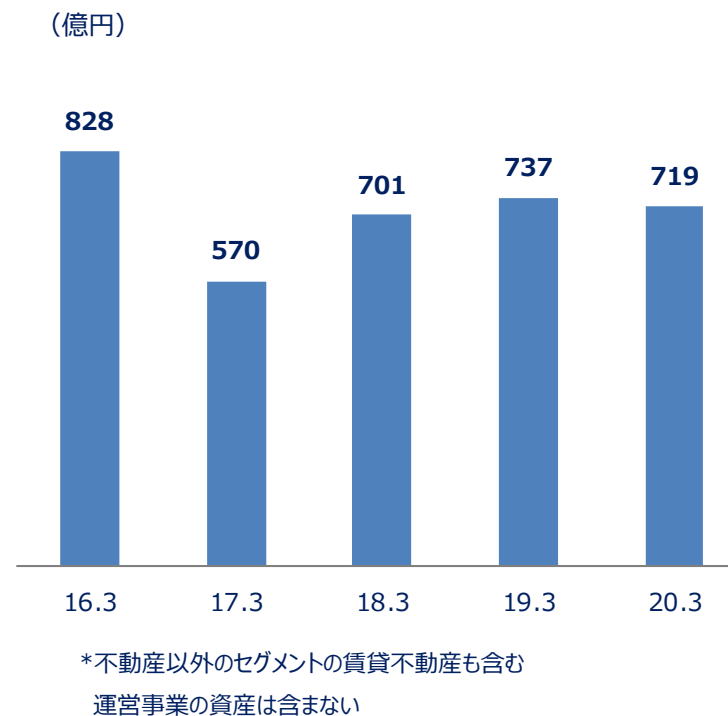
セグメント資産（20.3期末）



セグメント資産の推移



賃貸不動産の含み益*



セグメント別実績 (3) 事業投資・コンセッション

セグメント利益 : 43億円

前年同期比 ▲394億円 (▲90%)

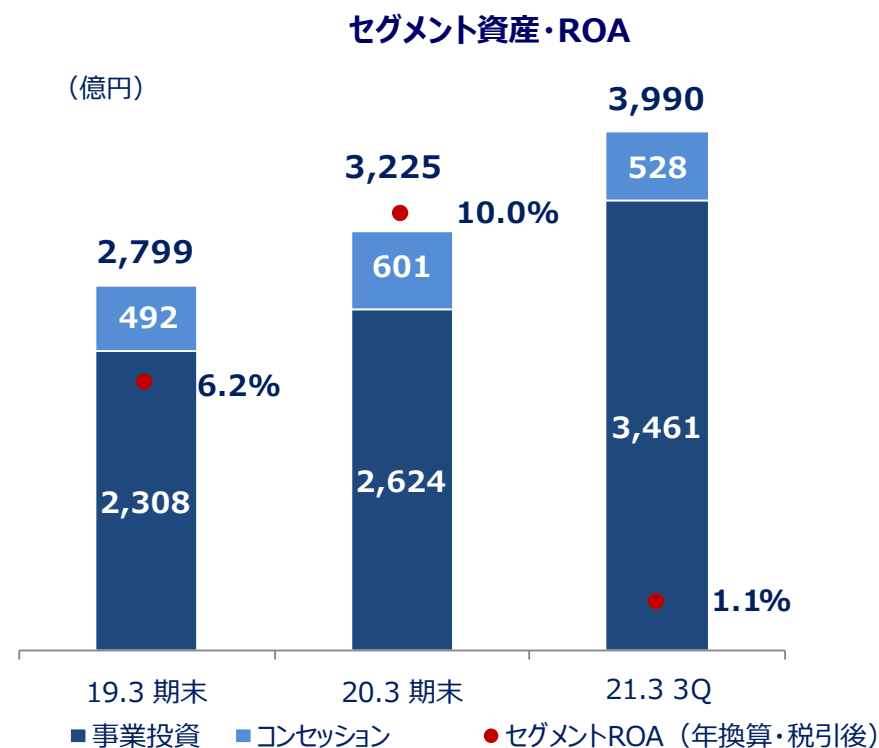
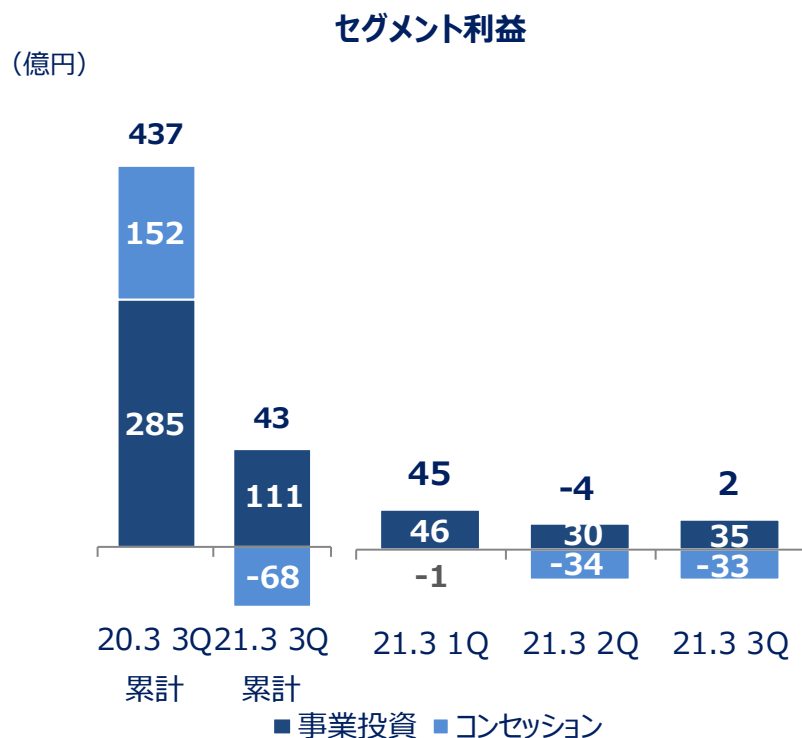
- ✓ 投資先からの取込利益は堅調に推移
ただし、前期にPE投資の売却益を計上したため、減益
- ✓ コンセッションは、関西エアポートで旅客数が減少
(現時点では国際線の回復は鈍いが、国内線は回復基調)

セグメント資産 : 3,990億円

前期末比 +764億円 (+24%)

- ✓ 国内PE投資では、1Qに1件*1、3Qに3件新規投資を実施*2
- ✓ コンセッションは、横ばい

*1: 同仁医薬化工 (医薬品の製造・販売)
*2: インフォマティクス (地図情報システム開発)
杉孝 (足場・仮設機材レンタル大手)
APRESIA Systems (ネットワーク機器メーカー)



- ✓ 事業投資の投資先は17件（2020年12月末時点）。オリックスグループの新たなビジネス・セグメントの構築を目指す

投資実績

幅広いネットワークおよび豊富な経験を生かし、優れた投資実績を誇る

投資対象	投資期間
中小型企业 に注力 (EV：数百億円)	1件あたり 3年～5年以上

実行案件数 (2012年以降)	投資実績
26件	IRR 30% 2012年以降の投資案件 (8件)のEXITの平均値

事業投資の特徴

資金力のみならず、幅広い業種における事業運営ノウハウを有する。対象会社のバリューアップを図りつつ、投資期間・投資形態に柔軟性をもつ

フレキシビリティ	PEファンドとは異なり自己資金での投資のため、柔軟な投資期間・投資形態が可能
実践的な支援	経営支援のための人材を送り込み、オリックスグループのネットワークを生かして事業成長のためにコワークする等、投資先企業と本質的な「パートナーシップ」を構築
シナジー	オリックスグループは、日本において強力な国内法人営業ネットワークを有する。ネットワークを活用した投資活動を通じて、多角的な事業ポートフォリオの構築に携わり、またグループでのシナジー効果を生み出す
注力分野	社会的課題の解決に資する、かつ成長が期待できる産業に着目し、物流・レンタル、IT・情報サービス、ヘルスケア・酪農等の産業に関しては重点的に投資を積み上げていく。注力分野では長期的な保有も行き、拡張性を追求すべくロールアップ等を積極的に行い、投資先間のシナジーも追求する

セグメント別実績 (4) 環境エネルギー

セグメント利益 : 178億円

前年同期比 +62億円 (+54%)

- ✓ 3Qは季節要因（太陽光の日照時間の減少）により減益となるも、コロナ禍においても、堅調に推移
- ✓ 1Qはインド風力事業の評価益を計上

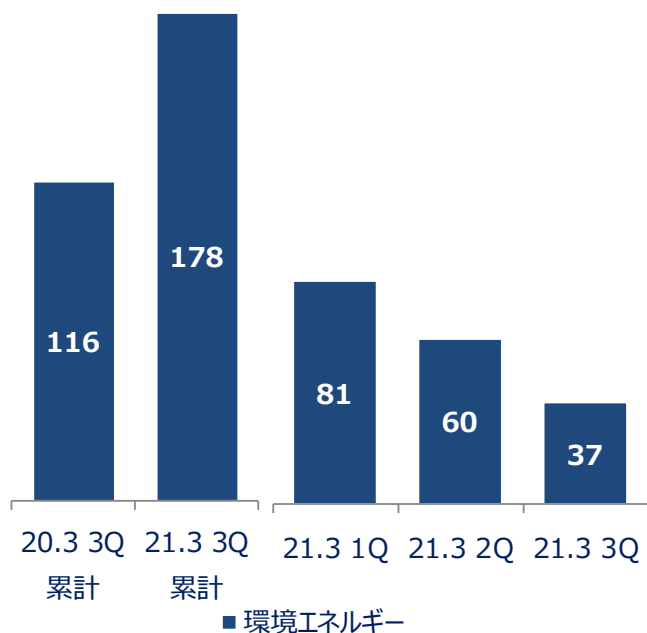
セグメント資産 : 4,793億円

前期末比 +5億円 (横ばい)

- ✓ 資産は横ばい
- ✓ Greenko Energyの発行済株式20%超の取得につき基本合意（21.3期中に本契約ならびに株式取得手続きの合意を目指す）
- ✓ Elawanの発行済株式80%の取得につき基本合意（22.3期中の株式取得を目指す）

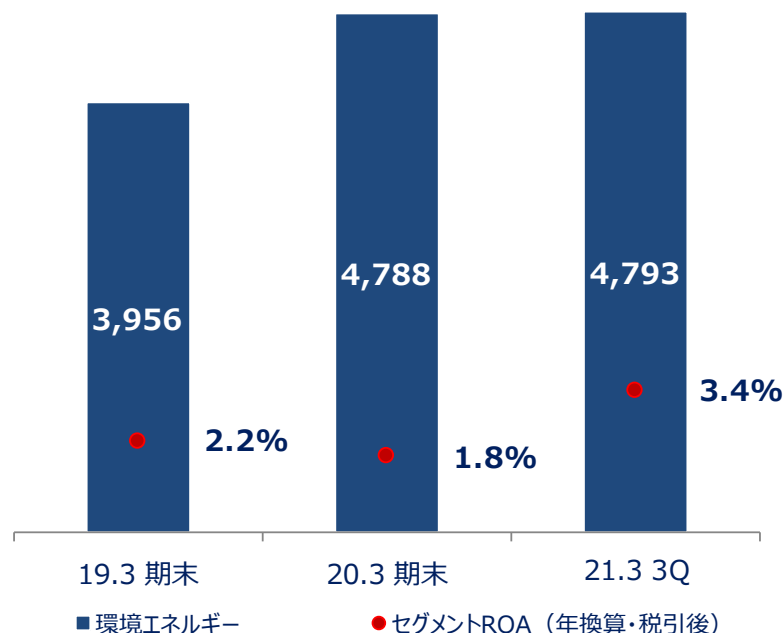
セグメント利益

(億円)



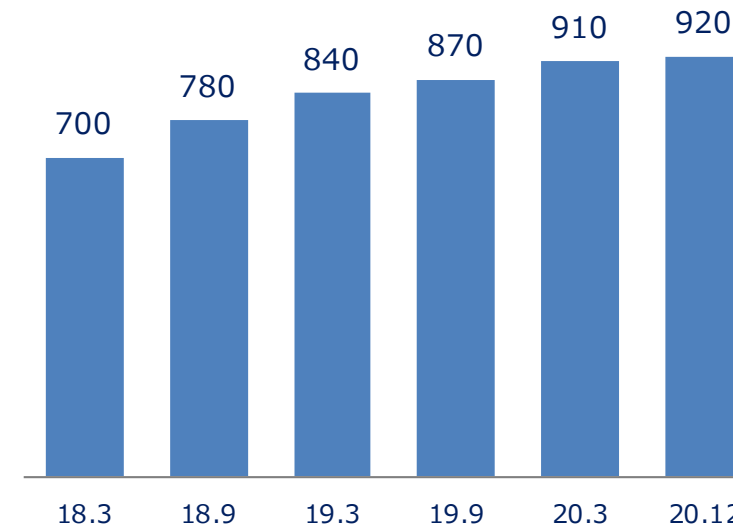
セグメント資産・ROA

(億円)



国内の太陽光発電事業 稼働状況

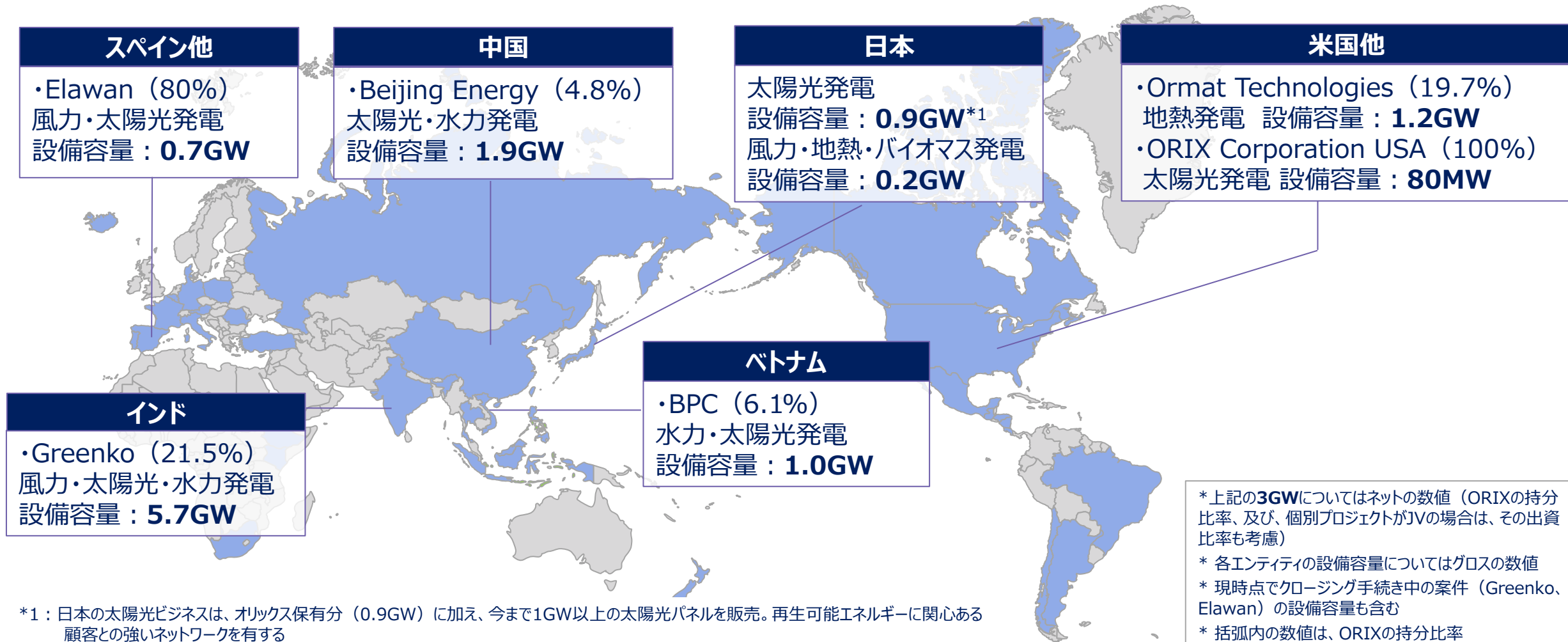
(MW)



再生可能エネルギービジネスについて

✓ 稼働済の設備容量は全世界で**3GW***

Greenko, Elawanを中心に約2GWのプロジェクトが建設中。パイプラインは、Greenko 8GW以上、Elawan 10GW以上



セグメント別実績 (5) 保険

セグメント利益 : 507億円

前年同期比 +71億円 (+16%)

- ✓ コロナ禍でも安定した利益を計上
- ✓ 非対面募集が伸長

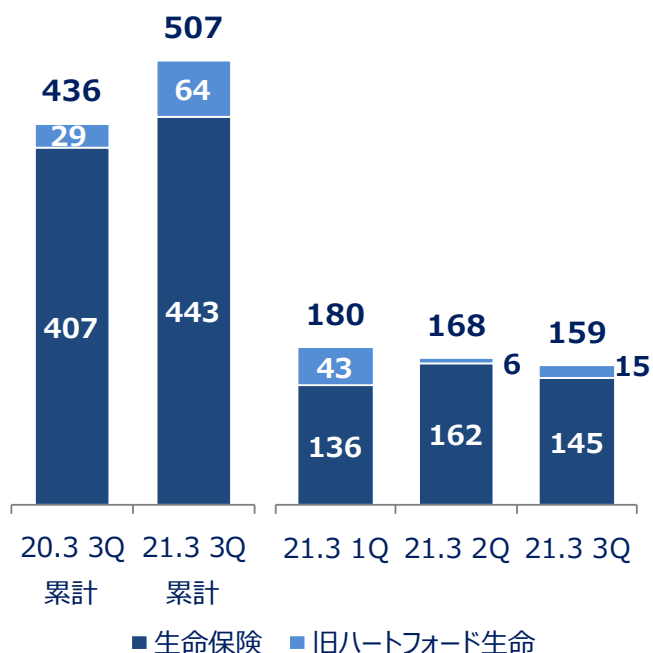
セグメント資産 : 18,880億円

前期末比 +3,078億円 (+19%)

- ✓ 新規契約の増加に伴い、運用資産が増加

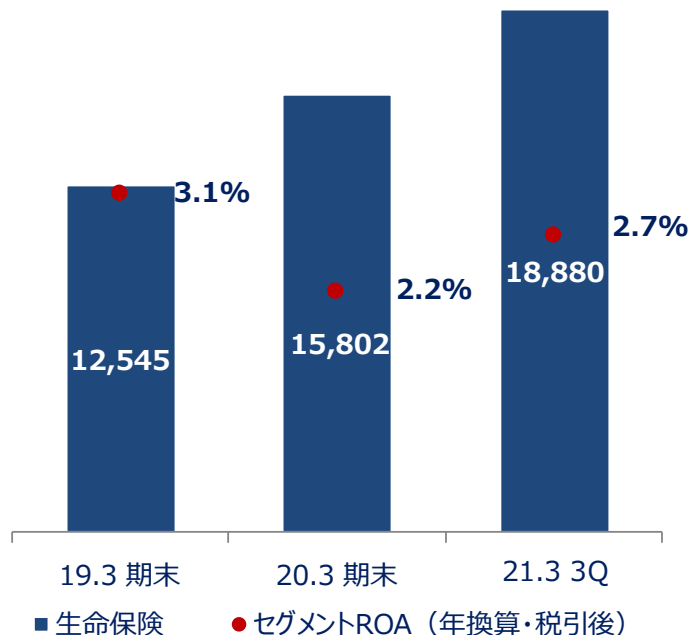
セグメント利益

(億円)



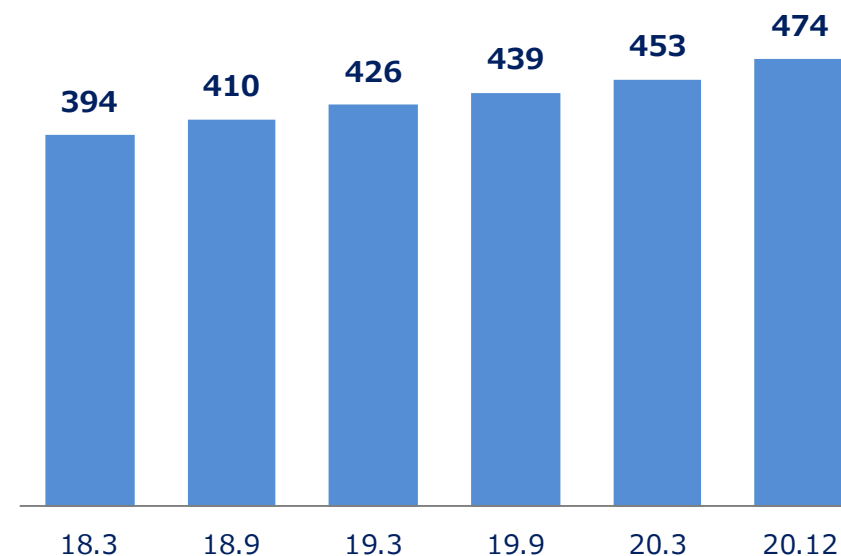
セグメント資産・ROA

(億円)



オリックス生命の個人保険
保有契約件数

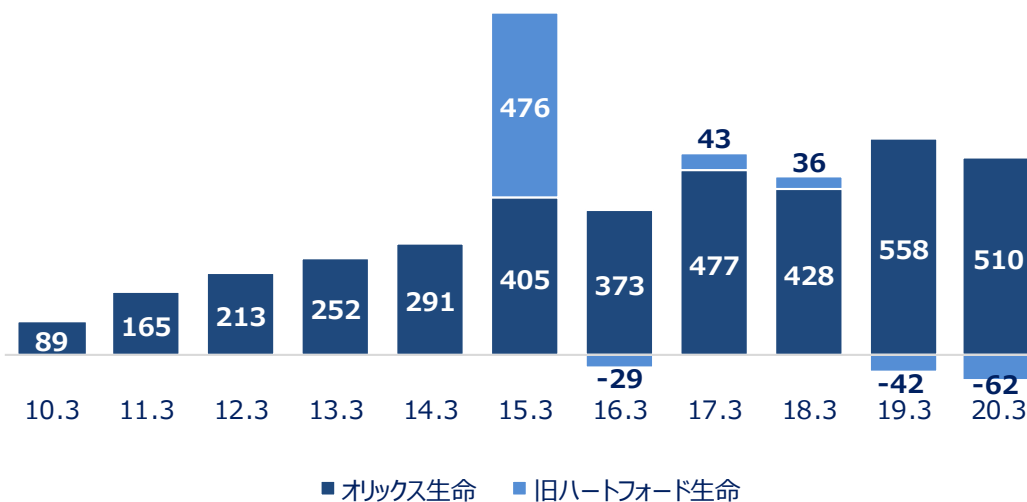
(万件)



- ✓ 4種類の販売チャネル（保険代理店、金融機関代理店、通信販売、オリックス生命社員による対面コンサル）を推進
- ✓ コロナ影響下でも堅調な「通信販売」は、パイオニアとして1997年からサービスを開始。
インターネットや郵便による販売を展開し、シェアは業界トップクラス
- ✓ 第三分野中心のポートフォリオから、第一分野に新たに商品を投入することで、よりバランスの取れたポートフォリオを実現

セグメント利益の推移*

(億円)

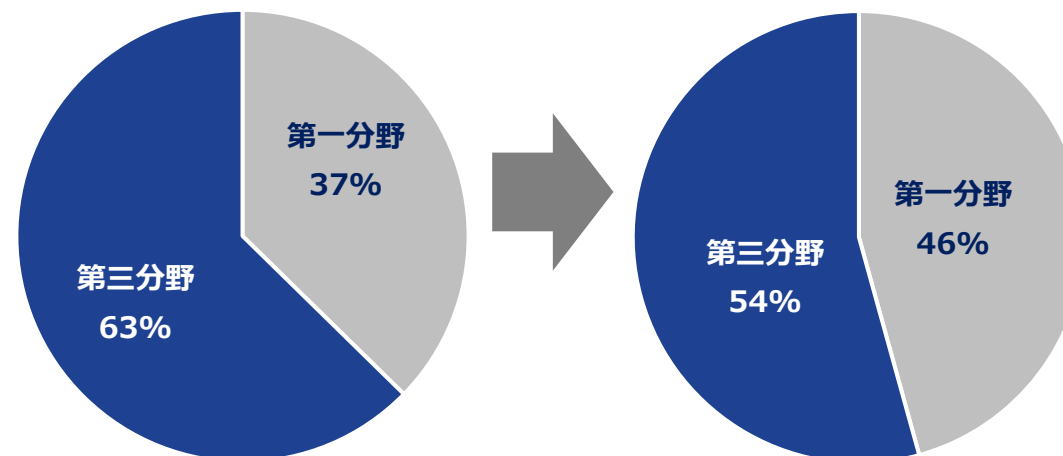


* 15年3月期は、旧ハートフォード生命取得に伴うバーゲンパーチェス益を計上

第一分野と第三分野のポートフォリオの推移 (保有契約の年換算保険料)

14.3期

20.3期



- ・第一分野（死亡保障など）
- ・第三分野（医療保険・がん保険など）

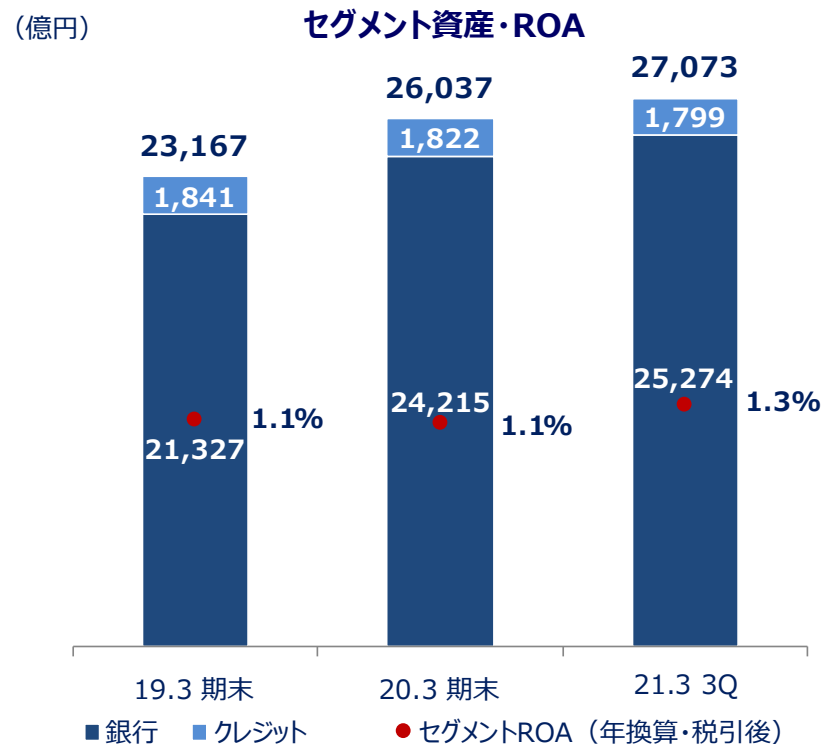
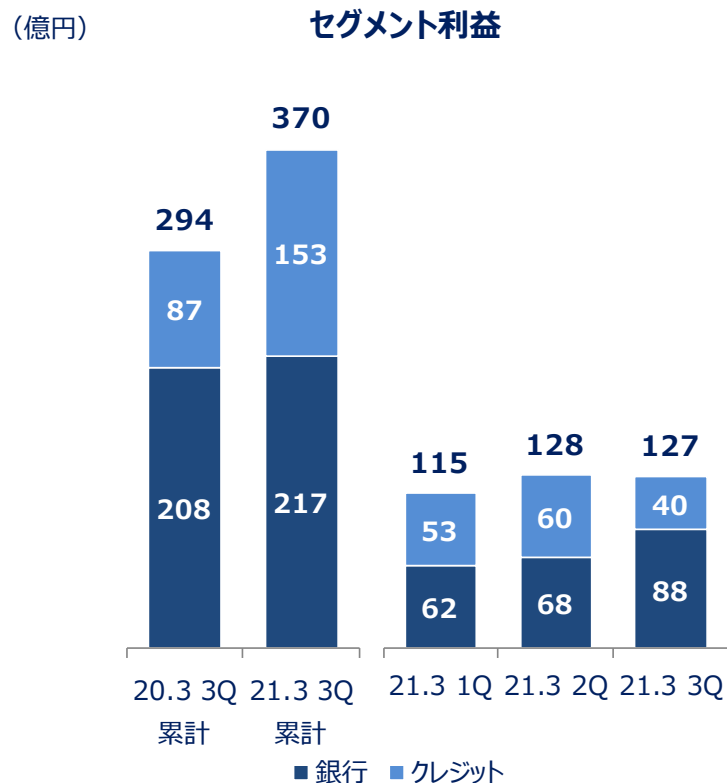
セグメント別実績 (6) 銀行・クレジット

セグメント利益 : 370億円 前年同期比 +75億円 (+26%)

- ✓ 銀行は、資産の積み上げにより、安定した利益を計上
- ✓ クレジットは、3Qは信用損失費用の戻り益が減少、前Q比にて減益

セグメント資産 : 27,073億円 前期末比 +1,035億円 (+4%)

- ✓ 銀行は、非対面営業を活用しながら投資用不動産ローンの需要を取込み増加
- ✓ クレジットは、横ばい



利回り・資金粗利鞘*

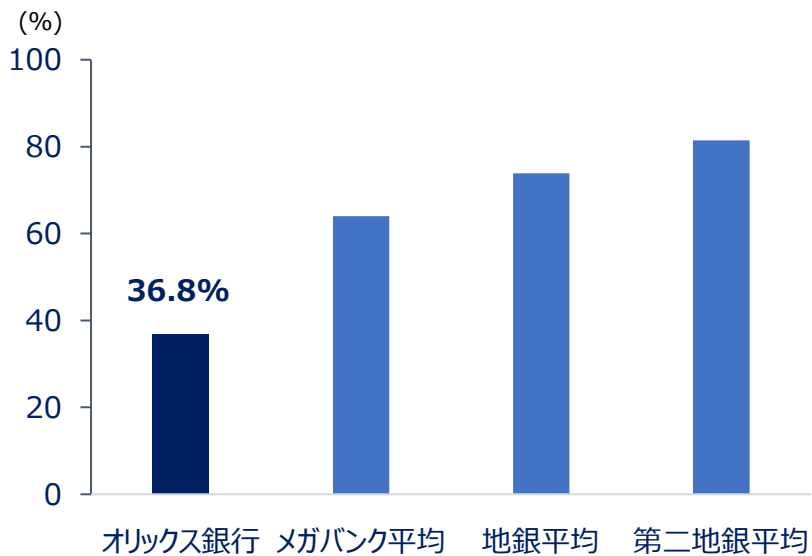
(2020年3月末時点)

オリックス銀行 (単体)	
資金運用利回り	2.12%
資金調達利回り	0.18%
資金粗利鞘	1.94%

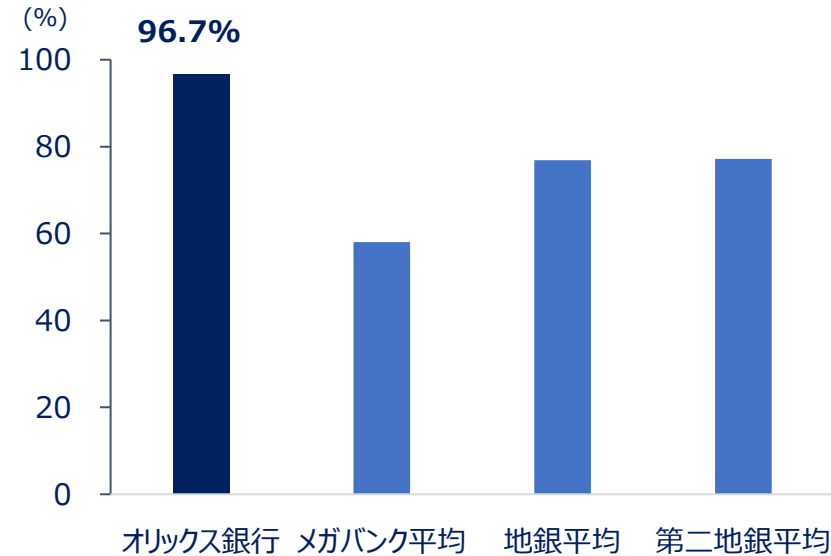
*オリックス銀行の決算開示資料にて公表の数値 (日本会計基準)
 資金運用利回り = 資金運用勘定における利息(大半が貸付金利息) ÷ 平均残高
 資金調達利回り = 資金調達勘定における利息 ÷ 平均残高
 資金粗利鞘 = 資金運用利回り - 資金調達利回り

- ✓ オリックス銀行は、投資用不動産ローン等を中心にサービスを提供し、同業他社と比べ高いROE・ROAを実現
- ✓ 店舗網や口座決済機能、ATM機能を持たず、運営費を抑えたビジネスモデルで展開しているため、相対的に低い経費率、高い預貸率を維持

20.3期 経費率



20.3期 預貸率



20.3期 ROE/ROA

	ROE	ROA
オリックス銀行	9.4%	0.8%
メガバンク平均	5.9%	0.2%
地銀平均	3.0%	0.1%
第二地銀平均	1.8%	0.1%

*全国銀行協会の「2019年度各行別財務諸表」に基づき当社集計
*経費率は「営業経費」、「業務粗利益」にて算出

セグメント別実績 (7) 輸送機器

セグメント利益 : 31億円

前年同期比 ▲302億円 (▲91%)

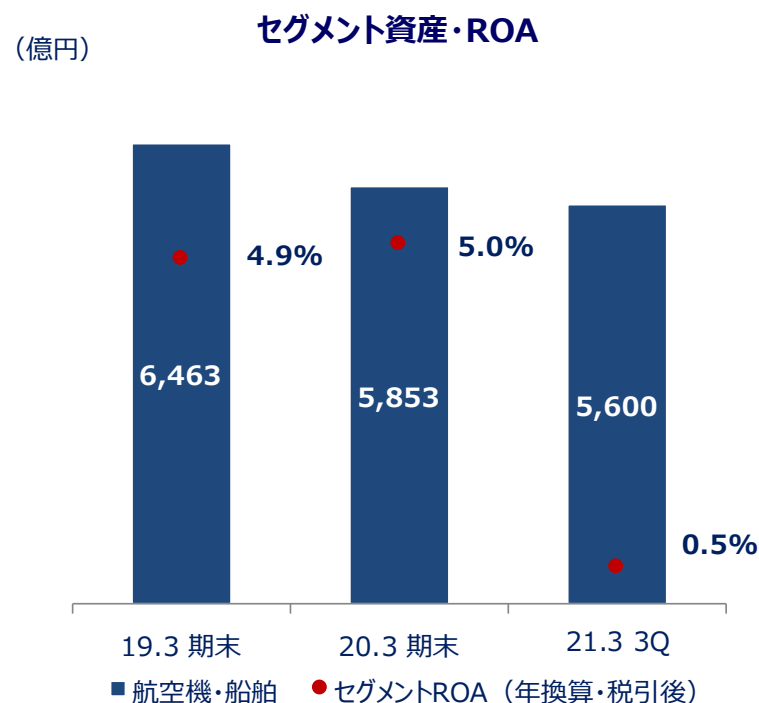
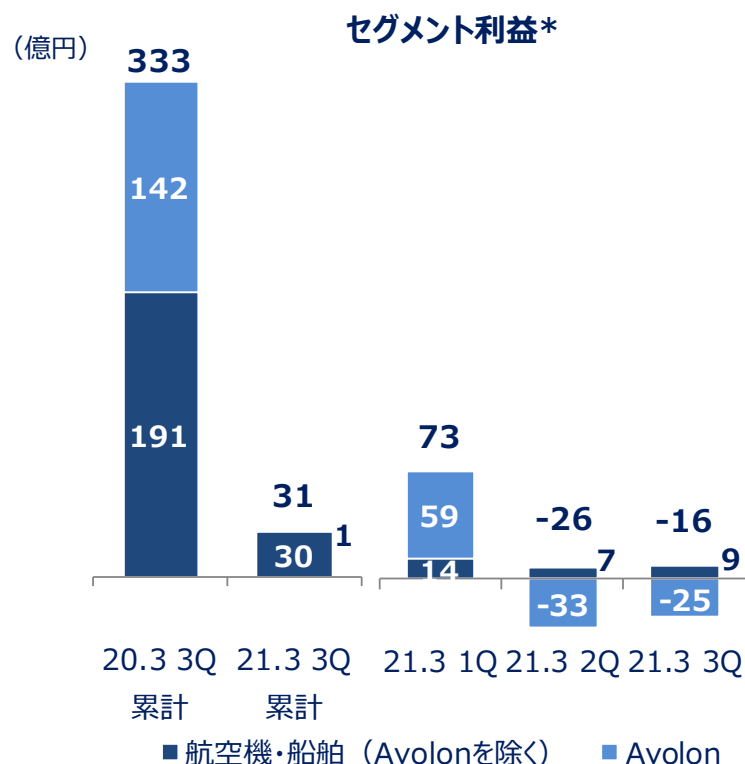
✓ 航空機、Avolonは、リース収入や売却益の減少により減益
(リース収入の減少は、前期に機体を売却した影響を含む)

セグメント資産 : 5,600億円

前期末比 ▲253億円 (▲4%)

✓ 為替影響を除くと、横ばい

航空機リース事業 (2020年12月末時点)

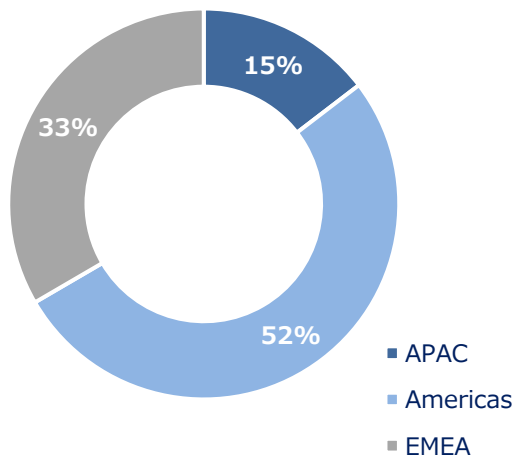


	オリックス 航空機リース事業	Avolon
業歴	42年 ファイナンスリースから開始 (1991年ORIX Aviation設立)	10年 (2010年設立)
ビジネス モデル	<ul style="list-style-type: none"> 中古マーケットでの トレーディングが主力 第三者に対する機体 購入のアレンジメントや アセットマネジメントサー ビスに強み 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機メーカーに 大口発注 発注機のリースに 強み
オリックス 出資比率	100%	30% (2018年11月取得)
格付	S&P : 最上位Strong (サービサー格付)	Fitch : BBB- Moody's : Baa3 S&P : BBB-

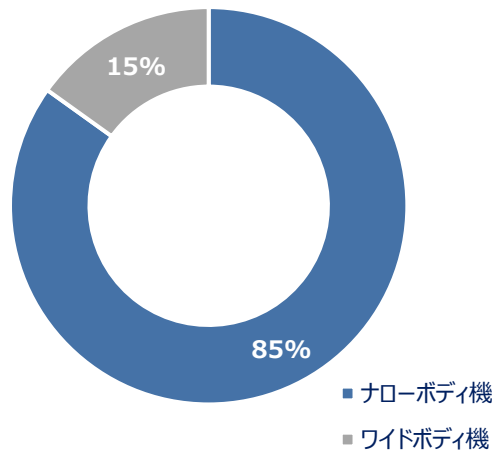
*Avolonのセグメント利益は、米国会計基準への組み替えを実施しているため、Avolonが国際会計基準に基づき公表している数値とは異なります

オリックス 航空機リース事業

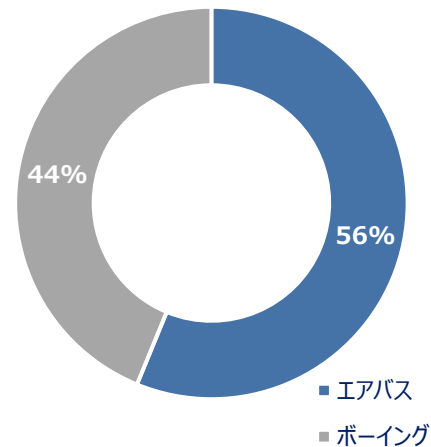
地域分布
(簿価ベース)



機種分布
(機数ベース)

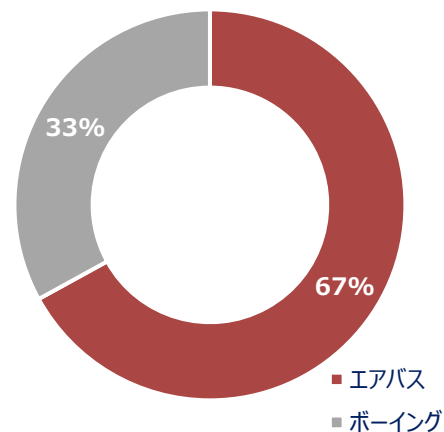
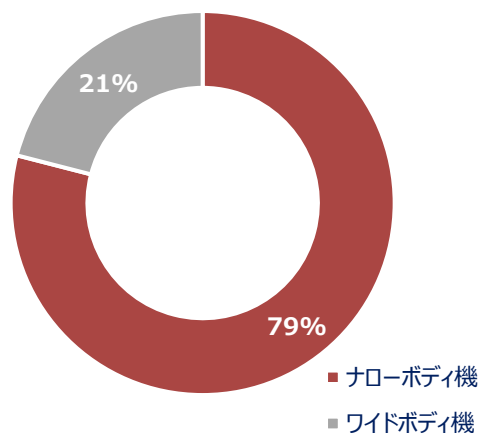
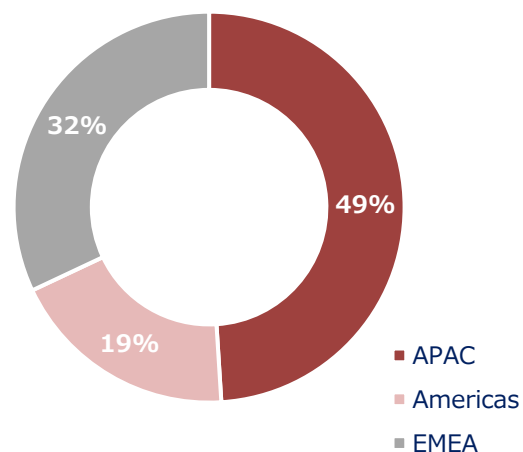


メーカー分布
(機数ベース)



保有機数	73機	発注機数	0機
平均機齢	5.8年		
平均残リース期間	6.8年	管理機数	134機

Avolon



保有機数	510機	発注機数*	270機
平均機齢	5.3年		
平均残リース期間	6.8年		

*メーカー発注のキャンセル等により2019年12月末時点の400機から減少
2021年末までにデリバリーされる発注機は全機リース契約締結済み
ボーイング737MAXでレシー確保が必要となるのは2024年以降

2020年12月末時点

セグメント別実績 (8) ORIX USA



セグメント利益 : 275億円

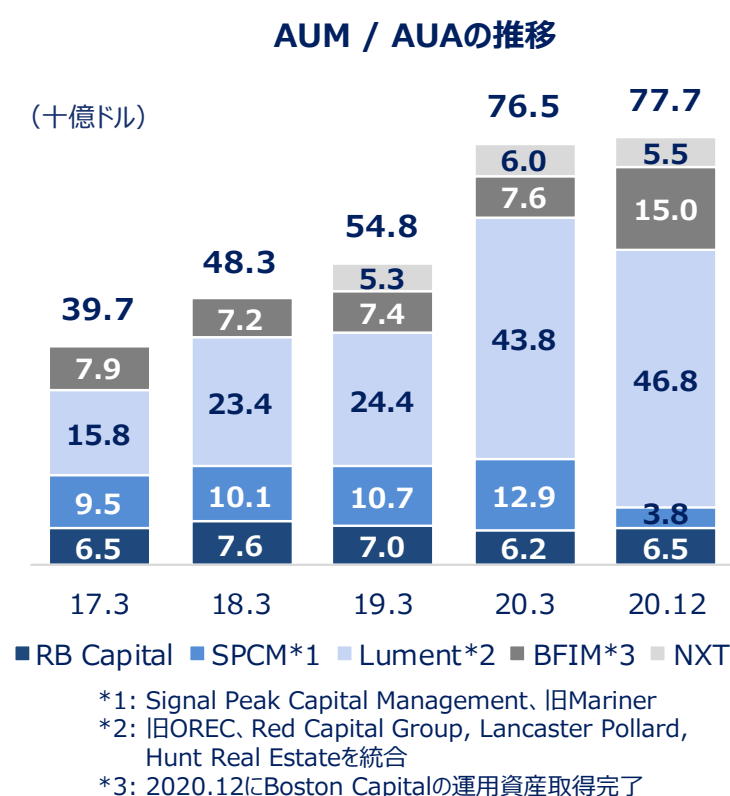
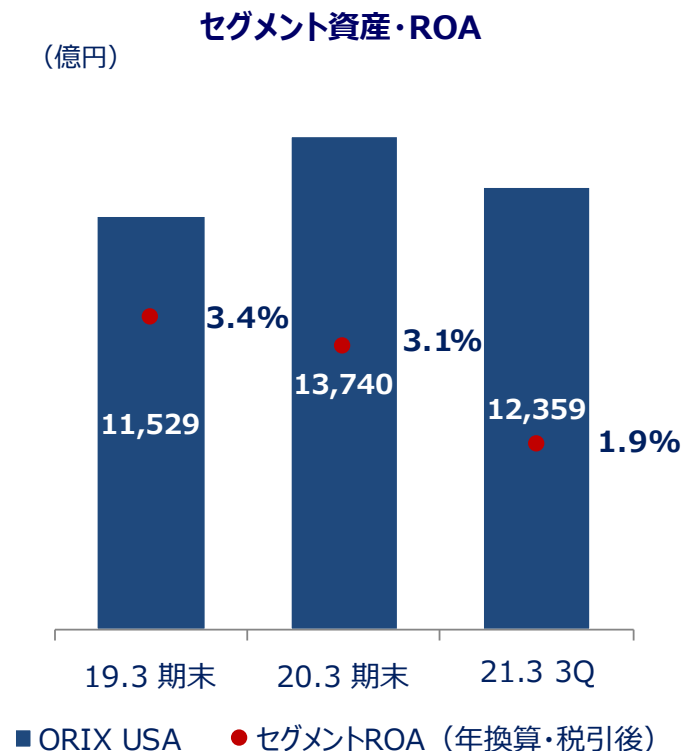
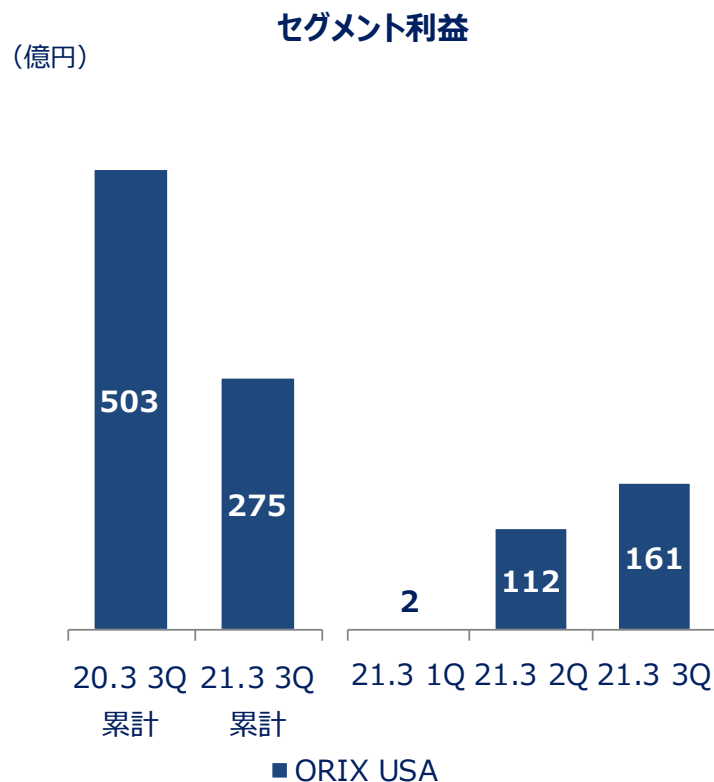
前年同期比 ▲227億円 (▲45%)

- ✓ 信用損失費用の縮小およびファンド評価損益の改善により、2Qに続き大幅に増益
- ✓ 前期はHoulihan株式の売却益を計上

セグメント資産 : 12,359億円

前期末比 ▲1,382億円 (▲10%)

- ✓ バランスシートを使う投融資に引き続き慎重に取り組んでおり、資産は減少(為替影響もあり)
- ✓ OCUは低所得者用住宅の分野で米国トップクラス。Boston Capitalの運用資産を買収後、BFIMのAUMは150億ドルに達し、業界内トップのLIHTCシンジケーターとなる



- ✓ 米国において40年以上の歴史を誇る
- ✓ 現在はクレジット、事業投資（PE）及び不動産の各ビジネスにおいて、米国のミドル・マーケット企業に注力
引き続き、アセットマネジメントビジネスの拡大を目指す

クレジット	事業投資（PE）	不動産					
セグメント資産: 60億 USD	セグメント資産: 10億 USD	セグメント資産: 50億 USD					
<p>NXT Capital 上位担保付ローンを中心に、米国のミドル・マーケット企業に77億ドルを融資</p> <p>ORIX Municipals & Infrastructure 高利回り債券（地方債、インフラ関連債権）に10億ドルの投資実績</p> <p>Signal Peak Capital Management シンジケート・ローン、ストラクチャード・ファイナンス（CLO）で48億ドルを運用</p>	<p>ORIX Capital Partners</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去5年で16件のディール ・ミドル・マーケットに注力。当初のインフラ関連投資から、現在はITサービス、デジタル・マーケティング、ファクトリー・オートメーションにシフト <p>ORIX Private Equity Solutions</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去9年で46件のディール ・平均金額は500~1500万ドル 	<p>既存の不動産子会社3社を 新ブランド Lument に統合</p> <table border="1" data-bbox="1717 708 2481 836"> <tr> <td>FHAローン 貸出金額 1位</td> <td>FHAローン 中低所得者向け 住宅 1位</td> <td>シニア向け 住宅ローン トップ3 (米国内)</td> <td>FHAローン シニア向け 住宅 1位</td> <td>FannieMae 少額ローン トップ3 (米国内)</td> </tr> </table> <p>*Mortgage Bankers Association's 2019 CRE Originations Rankings</p>  <p>営業拠点: 25か所 従業員: 約600名 融資スタッフ: 約160名</p>	FHAローン 貸出金額 1位	FHAローン 中低所得者向け 住宅 1位	シニア向け 住宅ローン トップ3 (米国内)	FHAローン シニア向け 住宅 1位	FannieMae 少額ローン トップ3 (米国内)
FHAローン 貸出金額 1位	FHAローン 中低所得者向け 住宅 1位	シニア向け 住宅ローン トップ3 (米国内)	FHAローン シニア向け 住宅 1位	FannieMae 少額ローン トップ3 (米国内)			

セグメント別実績 (9) ORIX Europe

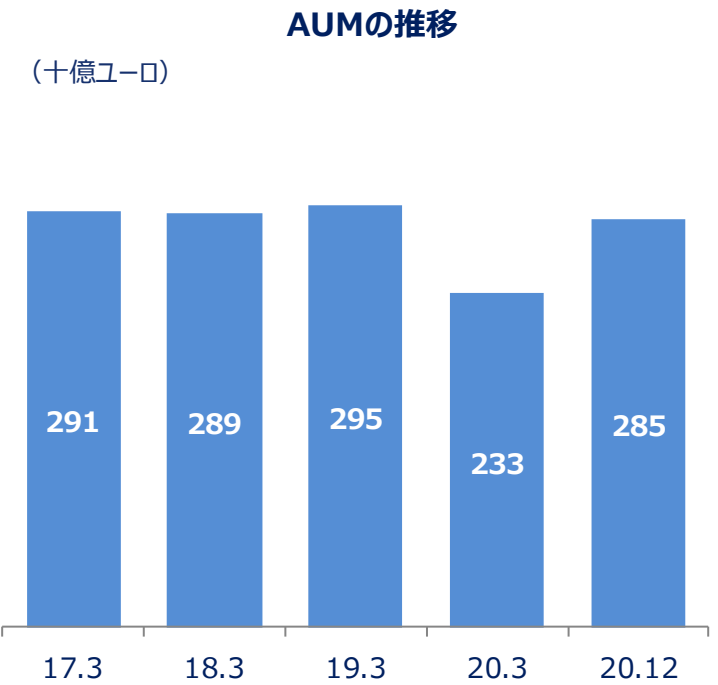
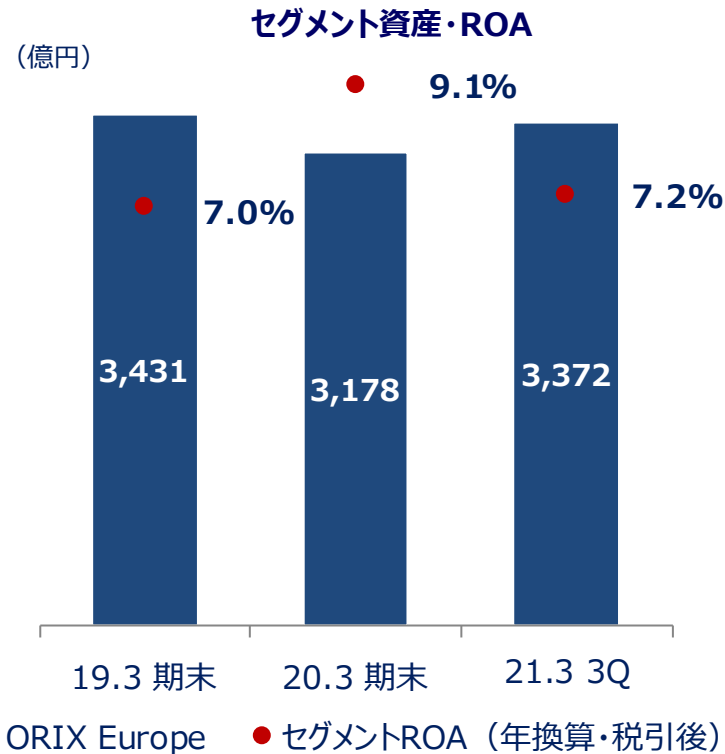
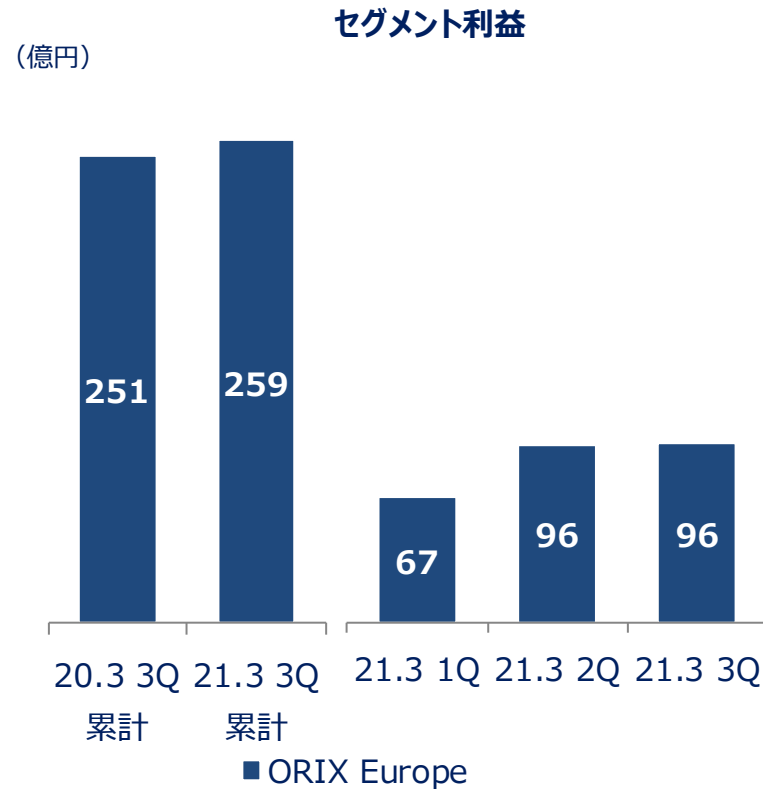


セグメント利益 : 259億円 前年同期比 +8億円 (+3%)

- ✓ AUMが回復し、利益は1Qより回復基調
- ✓ 比較的フィーの高い商品へのシフトも見られる

セグメント資産 : 3,372億円 前期末比 +193億円 (+6%)

- ✓ 市場の回復に伴い、AUMは緩やかに増加
- ✓ Gravis Capital Managementの発行済株式70%の取得を完了



セグメント事業内容：株式・債券のアセットマネジメント

2021年2月にオルタナティブ資産運用会社のGravis Capital Management*の買収を完了

① ORIX Europe Corporation

	本拠地	特徴	設立 (取得)
Robeco	ロッテルダム	株式・債券運用、 サステナビリティ投資の 資産運用会社	1929年 (2013年)
Boston Partners	ボストン	バリュー株投資ブティック	1995年 (2013年)
Harbor Capital Advisors	シカゴ	サブアドバイザーモデル による運用	1983年 (2013年)
Transtrend	ロッテルダム	先物投資顧問会社 (CTA)	1991年 (2013年)

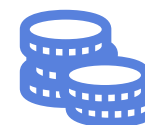
② Gravis Capital Management*

Gravis Capital Management	ロンドン	オルタナティブ資産運用会社	2008年 (2021年)
------------------------------	------	---------------	------------------

* 主に英国のインフラや再生可能エネルギー、不動産などESGの観点から選別したアセットを投資対象としたファンド

Robecoは、1990年代よりESG投資をリード
サステナビリティ投資のリーダー

Robeco単体の運用資産総額 (2020年9月末時点)



1,580億ユーロ

うちESG要素を統合した運用資産総額



1,380億ユーロ

2050年までにAUMレベルでのカーボンニュートラル達成を目指す
(2020年12月にNet Zero Asset Managers Initiativeへの参画を表明)

ご参考：オリックスのアセットマネジメント事業について

- ✓ 多様なアセットマネジメントビジネスを展開（2020年12月末時点で、運用資産残高：約**45兆円**）
 今期は、2020年12月にBoston Capital（運用残高：7,700億円）、2021年2月にGravis Capital Management（運用残高4,400億円）の取得を完了
- ✓ 現時点では、セグメント利益の約**20%**を構成

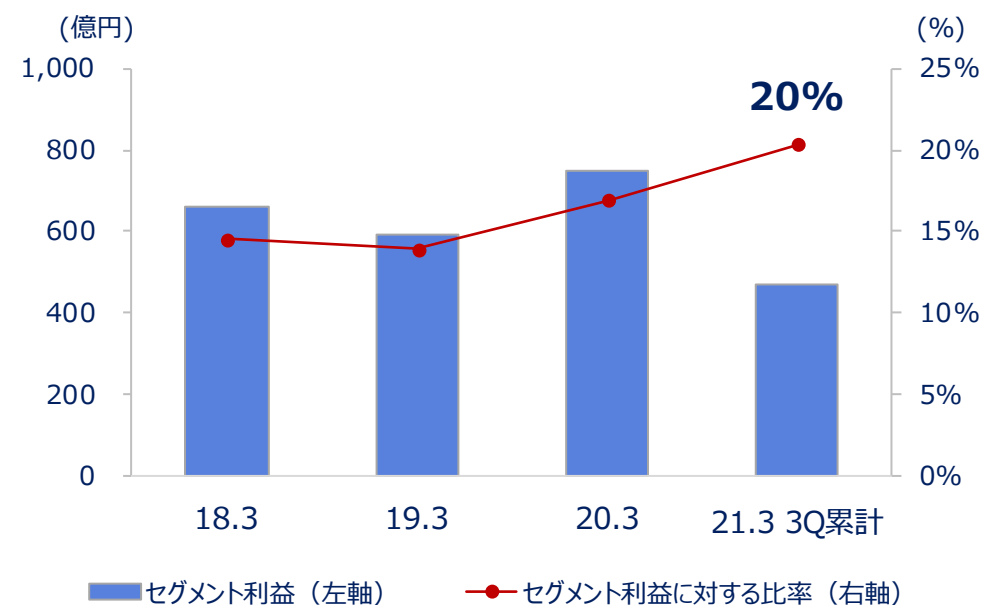
アセットマネジメント事業の運用資産残高

セグメント	主な会社	(億円)			
		2018.3	2019.3	2020.3	2020.12
OCE	Robeco, Harbor Capital Boston Partners, Transtrend	376,800	366,800	278,400	362,000
OCU	RB Capital, Signal Peak Capital* ¹ , Lument* ² , BFIM, NXT	51,100	60,900	83,300	80,300
不動産 (日本)	ORIA (ORIX不動産投顧問) OAM (オリックス・アセットマネジメント)	10,900	12,100	13,100	13,100
ORIX Group 計		438,800	439,800	374,800	455,400

*1: 旧マリナーインベストメントマネジメント（現在は、CLOのアセットマネジメント業務を行う）

*2: 旧OREC、Hunt Real Estate Capital、Lancaster PollardとRED Capital Groupを統合

アセットマネジメント事業のセグメント利益



上記のセグメント利益は、左記の各エンティティの税前利益の合計額
 = NXT、Lument等は、金利収入も収益源だが、それらの利益も上記の利益には含む

上記に加え、オリックス自動車の管理台数（143.9万台）、航空機の管理機数（134機）、マンション管理戸数（53.8万户）等も国内トッププレイヤー

セグメント別実績 (10) アジア・豪州

セグメント利益：84億円 前年同期比 ▲177億円 (▲68%)

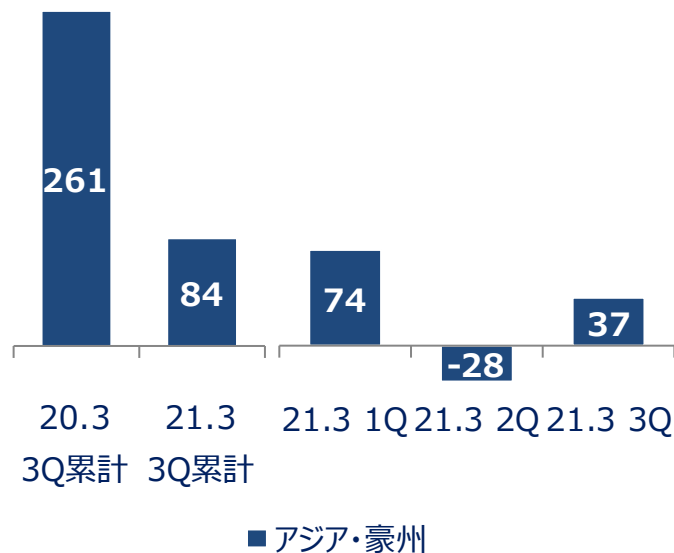
✓ PE投資先に対して減損を計上するも、現地法人の利益は堅調

セグメント資産：10,172億円 前期末比 +69億円 (+1%)

✓ 為替影響を除くと、前期末比▲267億円
 ✓ 中国最大の飲料水メーカー「農夫山泉」へ投資

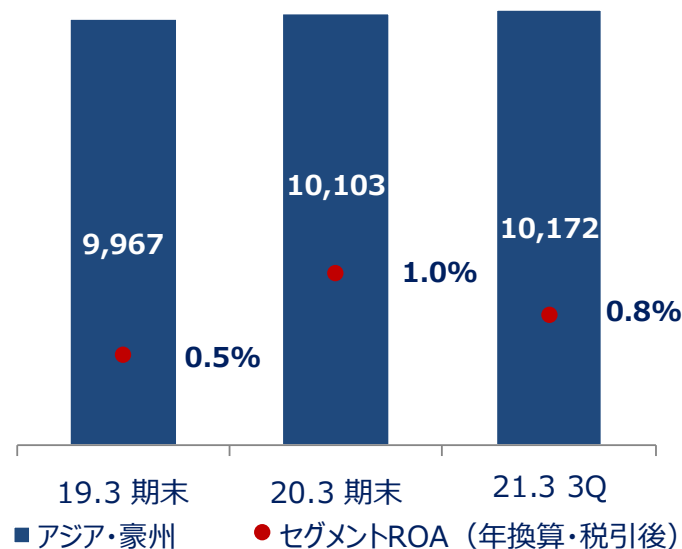
セグメント利益

(億円)

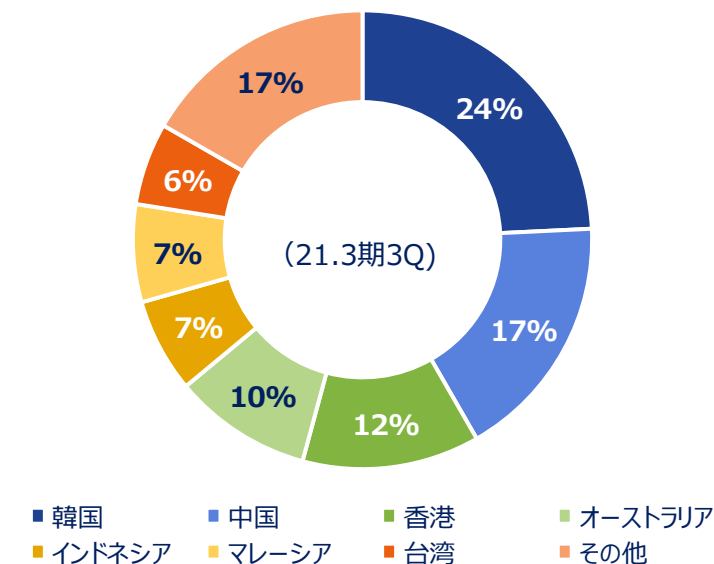


セグメント資産・ROA

(億円)

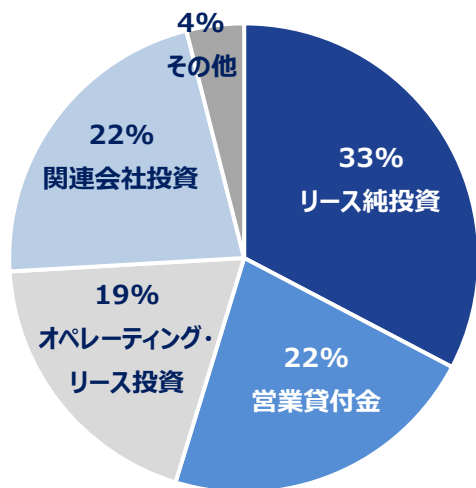


セグメント資産/地域別

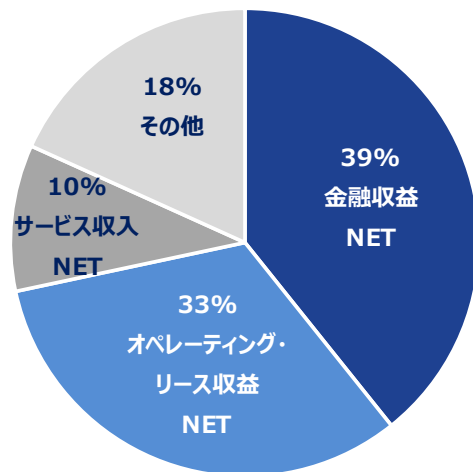


セグメント事業内容：アジア・豪州における金融、投資

セグメント資産（20.3期末）



セグメント収益 NET*（20.3期）



*セグメント収益NET：セグメント収益の各項目について、セグメント費用の各項目を差引後の粗利益（販売費および一般管理費控除前）

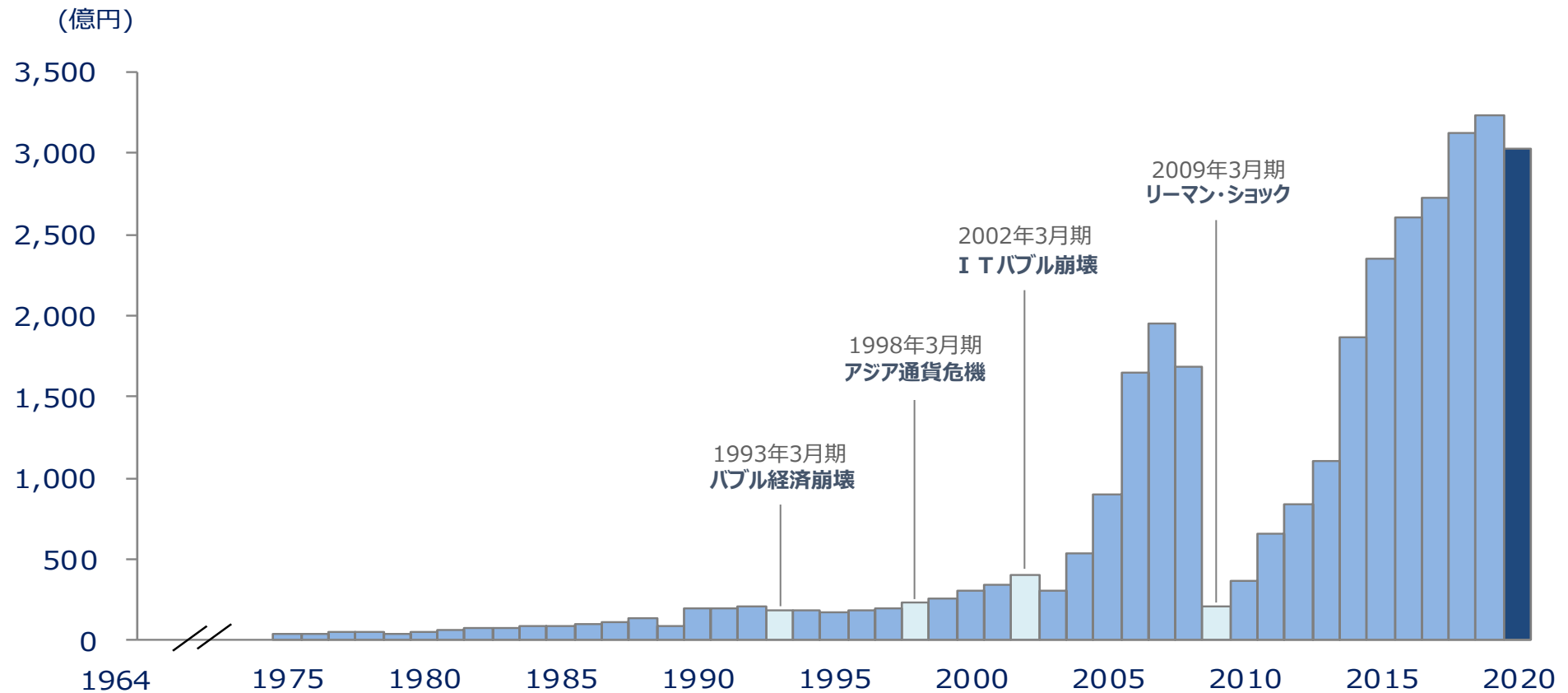
主な現地法人（アジア・豪州）

企業名	地域	事業内容	設立
ORIX Asia Limited	香港	リース、自動車リース、融資、銀行	1971/9
ORIX Leasing Malaysia Berhad	マレーシア	リース、融資	1973/9
PT. ORIX Indonesia Finance	インドネシア	リース、自動車リース	1975/4
ORIX Australia Corporation Limited	オーストラリア	自動車リース、トラックレンタル	1986/7
ORIX Auto Infrastructure Services Limited	インド	自動車リース、レンタカー、リース、商用車担保ローン、不動産担保ローン	1995/3
ORIX Capital Korea Corporation	韓国	自動車リース、リース、融資	2004/2
ORIX China Corporation	中国	リース、レンタル	2005/8

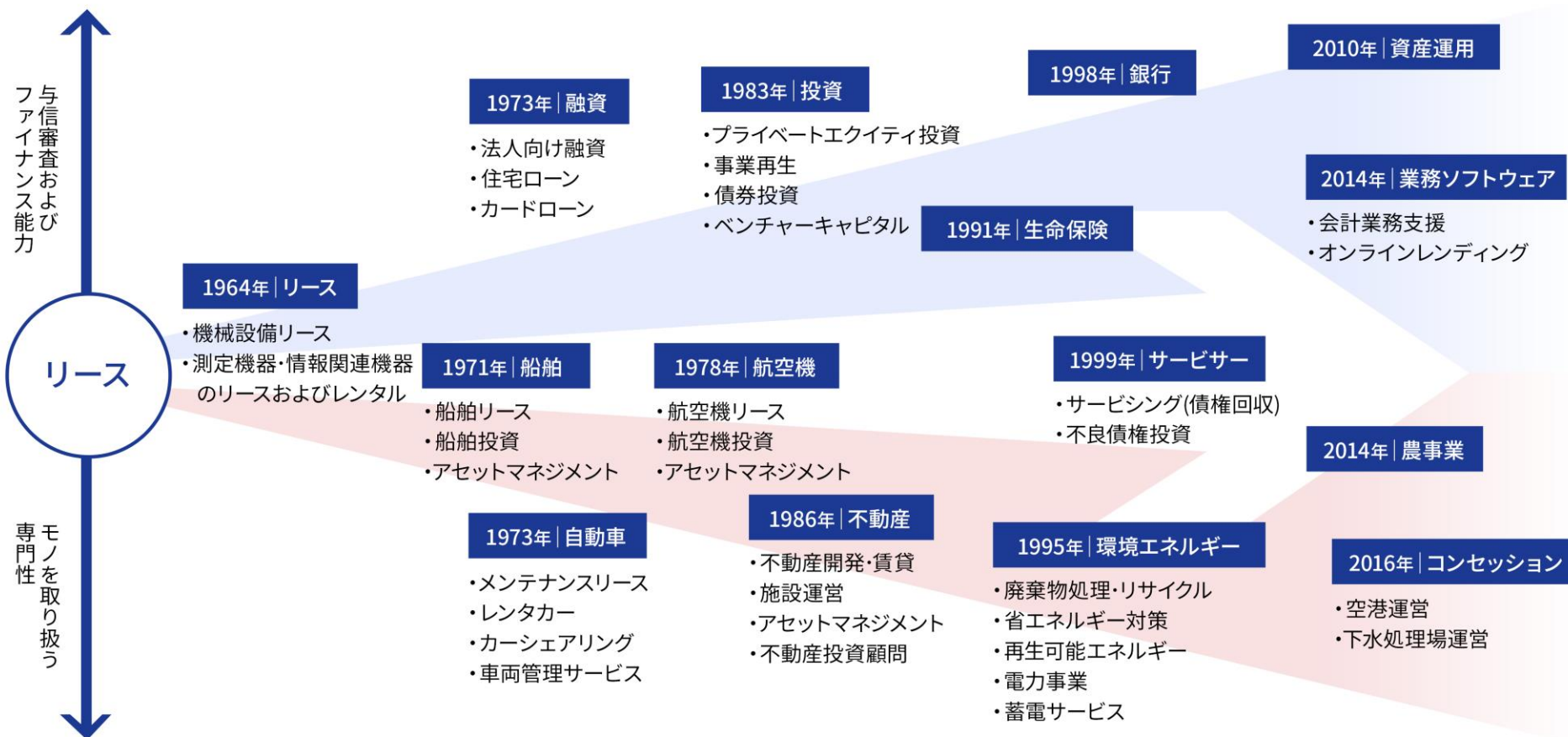
補足資料

- ✓ 設立初年度を除き、55年間毎期黒字を計上

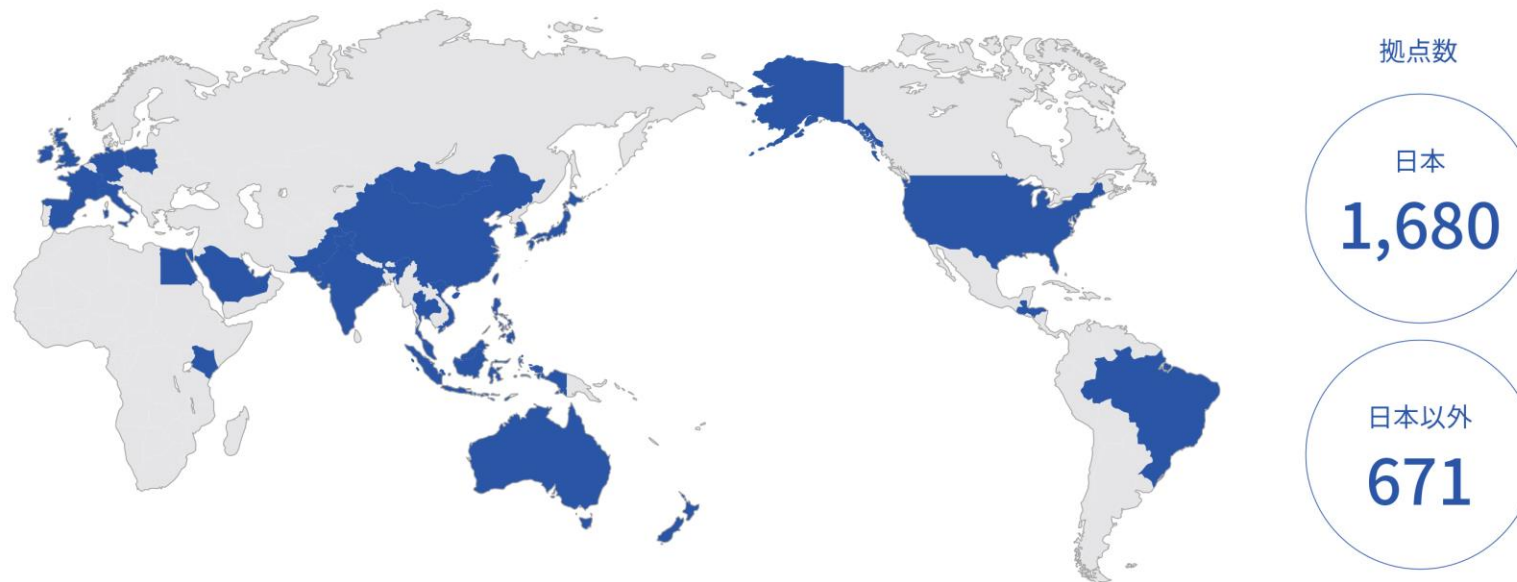
当社株主に帰属する当期純利益



✓ 「金融」と「モノ」の専門性を高めながら、隣へ、そのまた隣へと事業展開



- ✓ 国内で培ったノウハウを元にネットワークを拡大、世界34ヶ国・地域で事業を展開



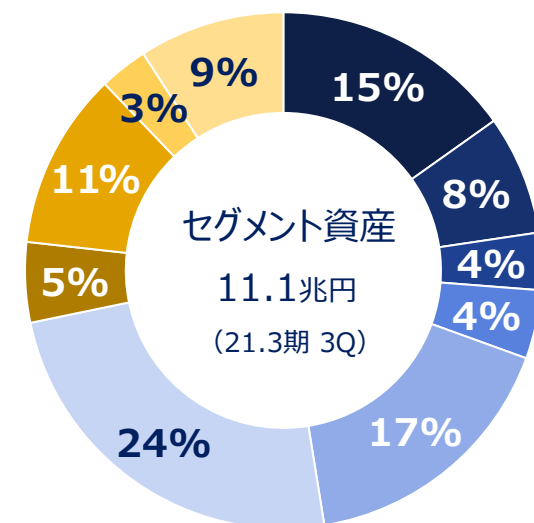
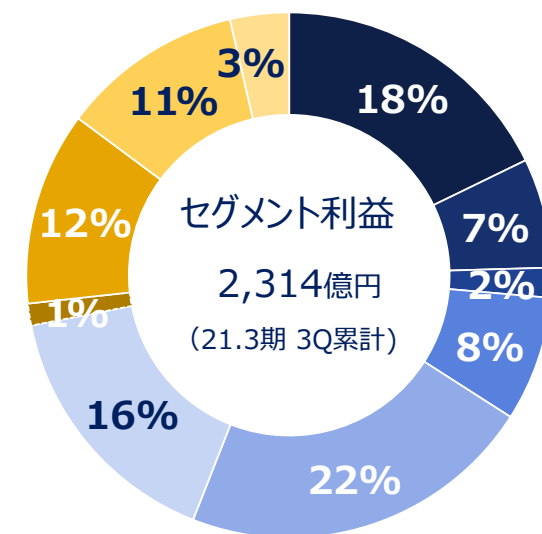
(2020年9月末日時点)

1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
グローバルネットワークの国・地域数				
7カ国・地域	12カ国・地域	18カ国・地域	26カ国・地域	34カ国・地域
アジアでのリースを中心としたグローバルネットワークの拡大		グローバルネットワークの拡大継続 航空機関連やエクイティ投資への事業が多角化		ロベコ買収や、環境エネルギー事業の展開を通じてさらに事業分野が拡大

オリックスについて セグメント別の利益・資産の構成

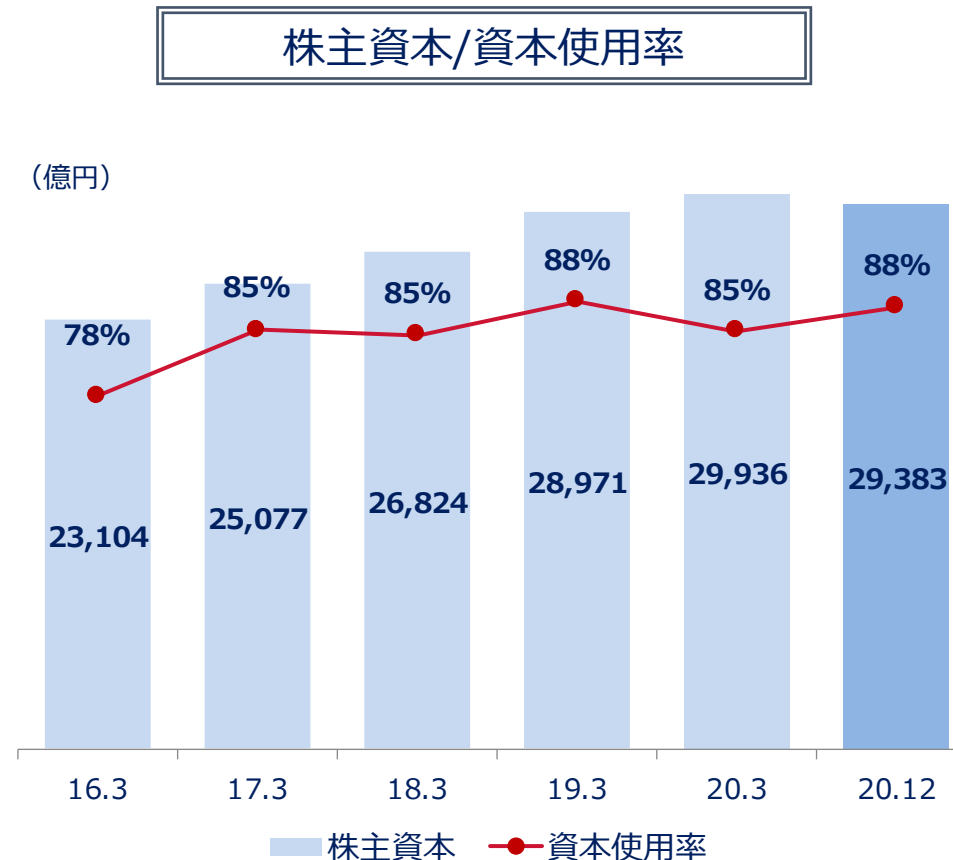
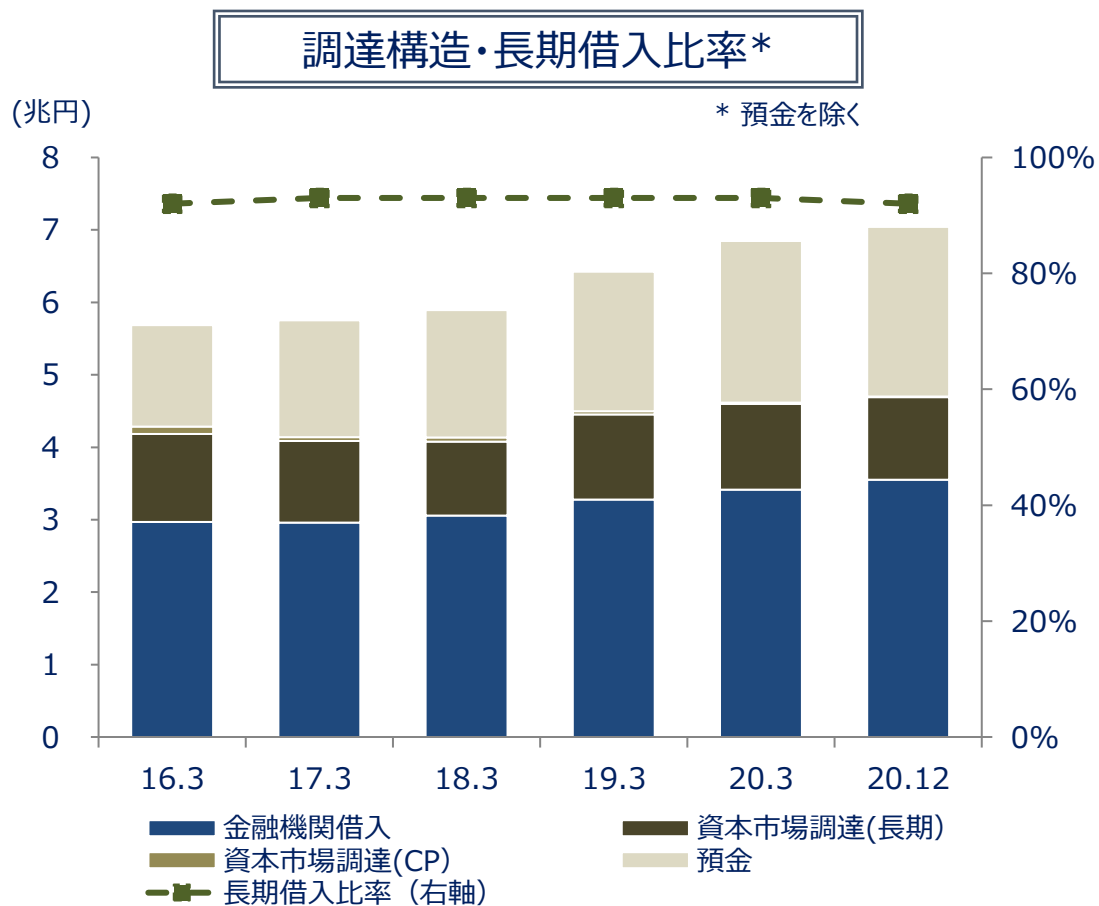
✓ それぞれの事業が独自の強みを最大限に発揮し、相乗効果を生み出している

法人営業・メンテナンスリース	金融、各種手数料ビジネス、自動車および電子計測器・IT関連機器などのリースおよびレンタル、弥生
不動産	不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント
事業投資・コンセッション	企業投資、コンセッション
環境エネルギー	国内外再生可能エネルギー、電力小売、省エネルギーサービス、ソーラーパネル・蓄電池販売、廃棄物処理
保険	生命保険
銀行・クレジット	銀行、カードローン
輸送機器	航空機のリース・管理、船舶関連投融資
ORIX USA	米州における金融、投資、アセットマネジメント
ORIX Europe	株式・債券のアセットマネジメント
アジア・豪州	アジア・豪州における金融、投資



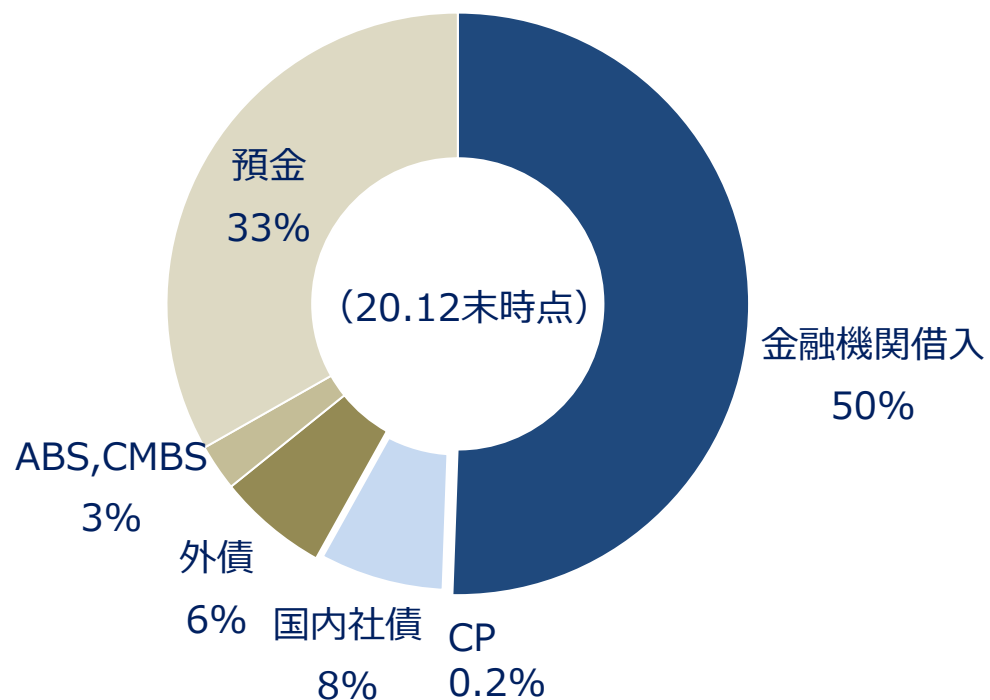
財務健全性 資金調達構造/株主資本使用率

- ✓ 資金調達構造 : 資金調達手法を多様化、高い長期借入比率を維持
- ✓ 株主資本使用率 : オリックスの株主資本に対して、どれほど資本を使用しているかを示す比率
引き続き、リスク/リターンをコントロールしつつ成長を目指す

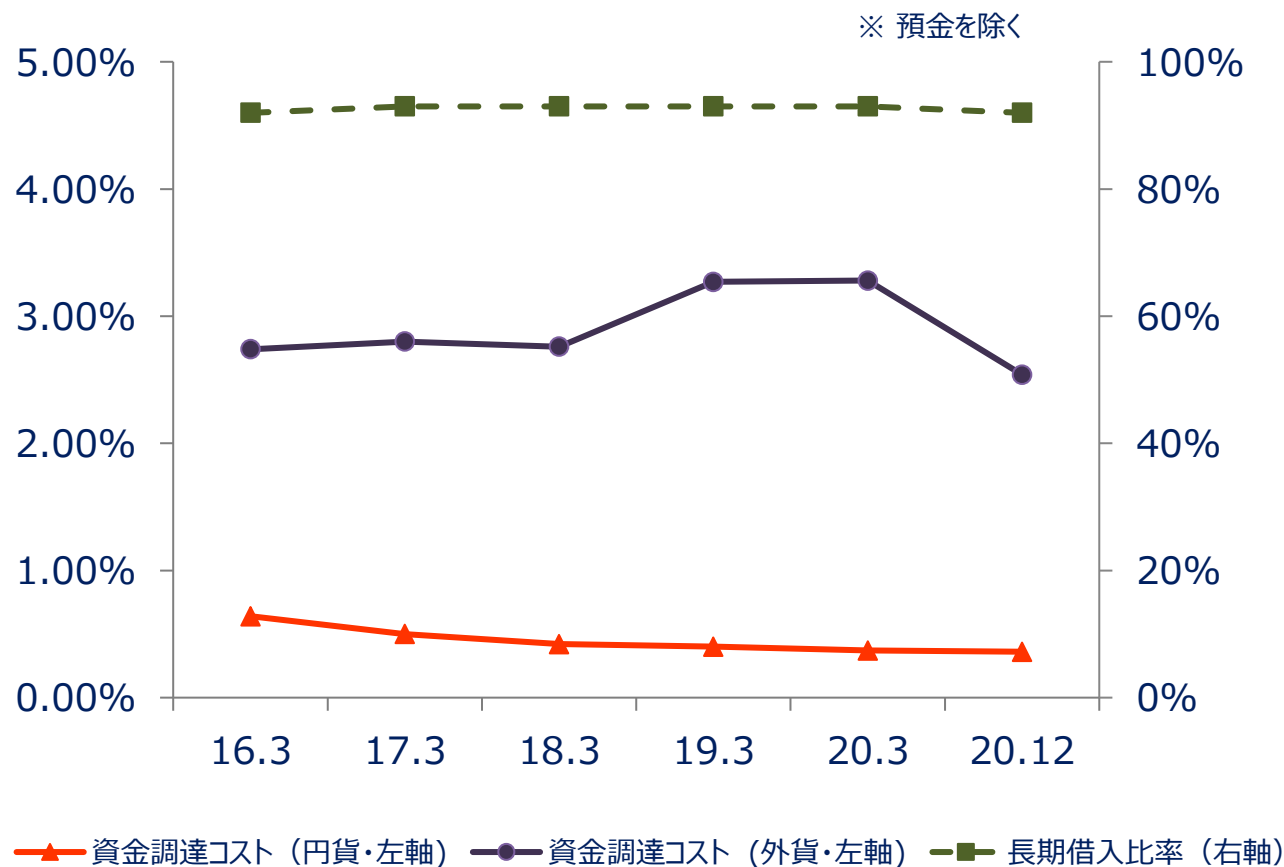


✓ 多様化された資金調達。高い長期借入比率を維持しながらコストをコントロール

資金調達の内訳



コスト・長期借入比率^(※)の推移

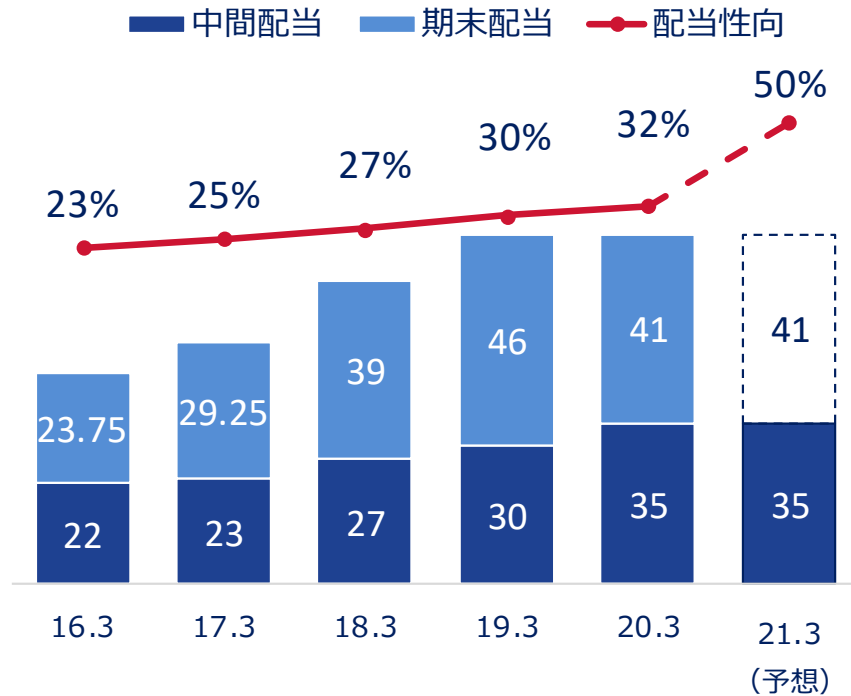


株主還元について

- ✓ 今期の通期配当額は、一株当たり76円もしくは配当性向50%、いずれか高い方
- ✓ 自社株買いは、2020年11月2日の中間決算に発表した442億円を取得済

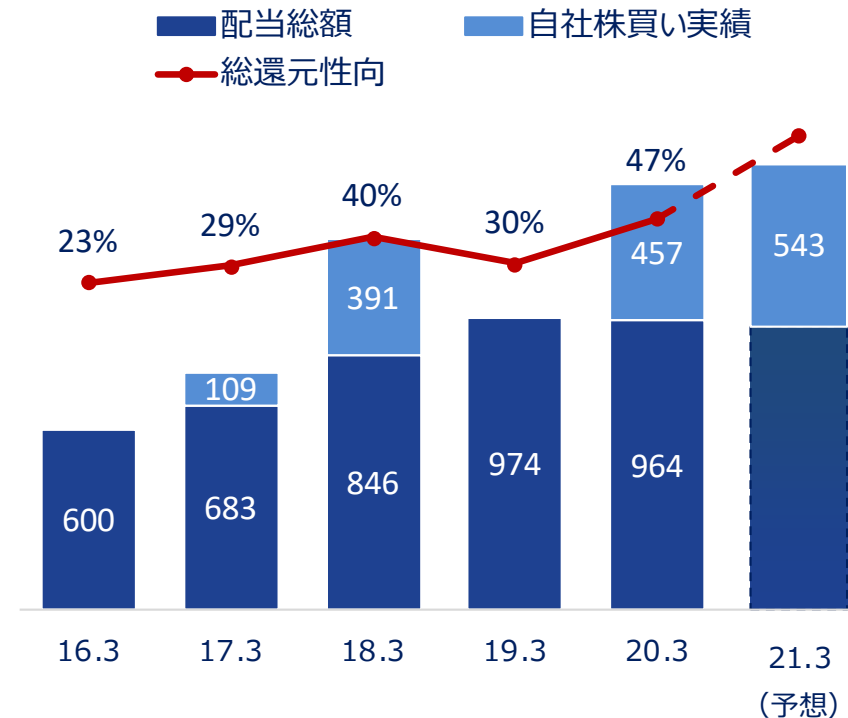
1株あたり配当金と配当性向

(単位：円)



自社株買いと総還元性向

(単位：億円)



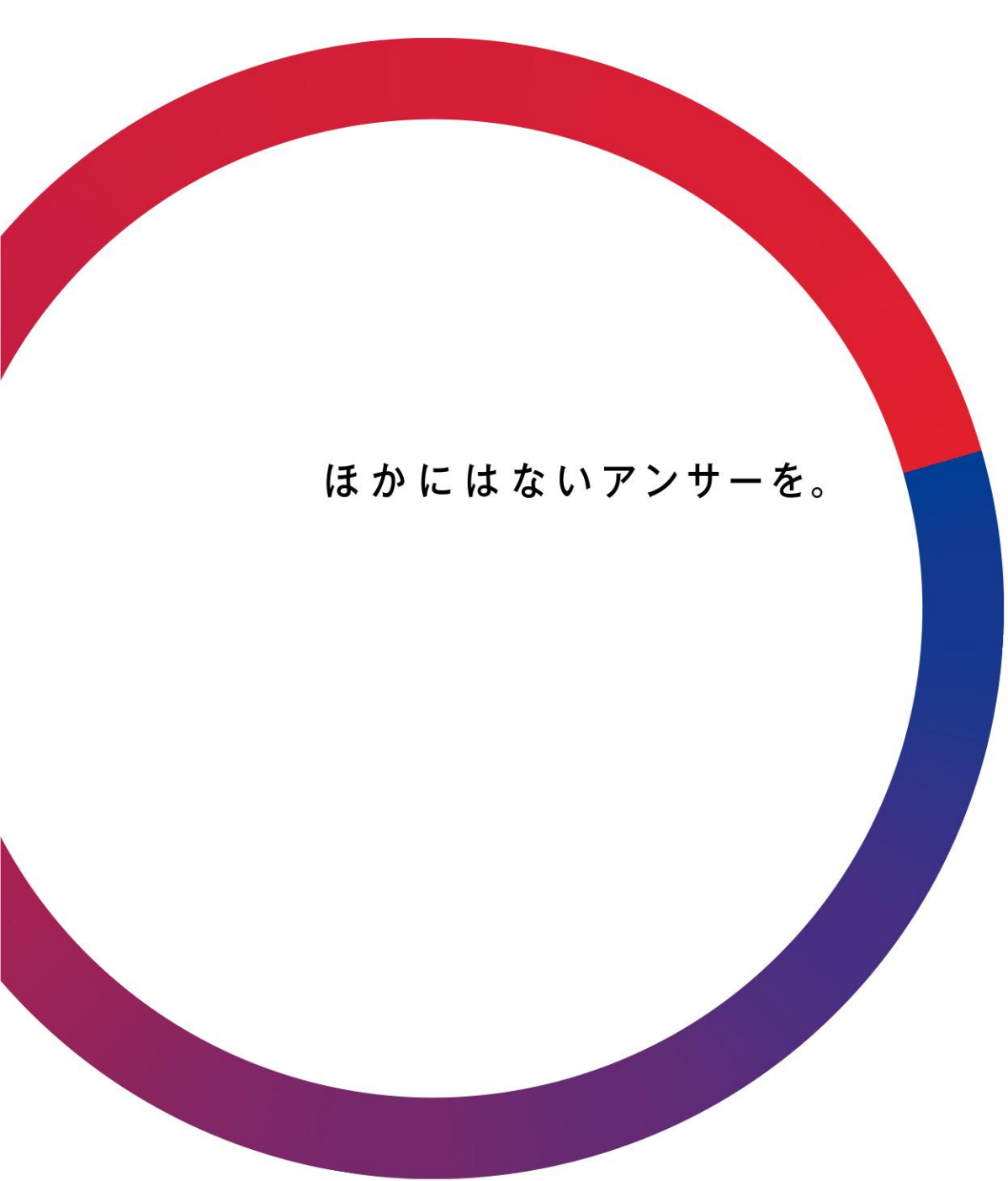
うち、中間決算に発表した442億円の自社株買いは取得済

本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみにより全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会（SEC）に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因（Risk Factors）」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。



ほかにはないアンサーを。

オリックスに関する追加情報については弊社ホームページをご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

投資家情報

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/>

IR資料室

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/library/>

オリックス株式会社 IR・サステナビリティ推進部

TEL : 03-3435-3121